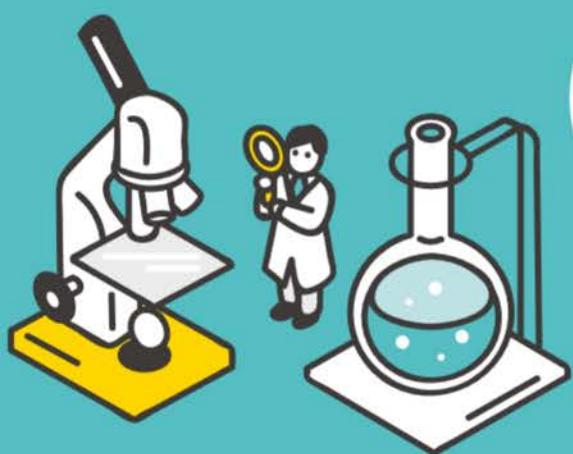


学園だより



第89号

令和4年3月発行
都城工業高等専門学校
広報委員会



●卷頭挨拶	1	●特集Ⅱ こちら在校生	22	●学生表彰	31
●学内動向	2	●特集Ⅲ 拝啓後輩殿(OB・OG通信)	24	●高千穂寮トピックス	33
●ようこそ学生相談支援室へ	3	卒業生から後輩へのメッセージ		●国際交流トピックス	35
●着任挨拶	4	●特集Ⅳ こちら後援会	26	●都城高専少年少女科学アカデミー	37
●卒業記念・修了記念	7	●新旧学生会長挨拶	28	●主な就職・進学内定先一覧	38
●特集Ⅰ 文化祭	19	●学内トピックス	29		

巻頭挨拶

令和3年度を振り返って

校長 和田 清



2019年から続く新型コロナウイルスの感染拡大は、年末から変異種オミクロン株の流行などが加わり、様々な制約の中での運営となりました。しかしながら、昨年度実施できなかったオープンキャンパスの開催、時期をずらした各種イベント、学外者を制限した体育競技会や文化祭、オンラインを活用した各種講演会など、状況に応じて選択肢を増やす工夫を行ってきました。また、コロナ禍であっても、県高校総体における表彰、全国高専体育大会への出場・表彰、各種コンテストや専攻科生の学会発表賞の受賞など、学生の活躍がありました。加えて、オープンキャンパス、おもしろ科学フェスティバル、少年少女科学アカデミーなどのアウトリーチ活動に、多くの学生諸君がサイエンスボランティアとして参加し、小中学生に理科や科学技術を学ぶ楽しさなどを伝えてくれました。

コロナ禍は、これまでの社会を根底から揺さぶることになりましたが、この国難の時代にどうしたら幸せになれるか、幸せになるためにはどのような心がけが必要なのかについて考える契機をもたらしました。この新型コロナウイルスの終息が見えない今は、個人として困難から逃げない、自分を磨くという姿勢でこの困難に立ち向かうことが肝要です。ある社会心理学者によれば、体験価値や創造価値の他に態度価値があって、困難に対してどのような態度で立ち向かうか、そのためには自分の過去を見つめること、活動領域を縮小して意識領域を拡大すること、自宅にいることを余儀なくされている時が絶好のチャンスとも言えるわけです。

今年は、高専制度が創設されて60周年の節目を迎えます。本校は3期校ですので、創設60周年記念式典は2024年を予定しています。高専は技術者育成をミッションとしており、最近では、経済成長などに貢献することを通して社会の役に立つ技術者を育てるという20世紀型の「技術者教育」を脱して、人がより「よく生きる（well-being）」ことができる社会を構想し、その構想を先導する技術者の育成が求められるようになりました。これは、SDGsのように、環境・資源・人口などの制限が明らかになる中で、20世紀型の成長社会はすでに成立せず、持続可能な社会モデルを構築する必要があることからも

十分理解できます。

高専教育は、わが国が創設したユニークな高等教育機関です。設立当初の中堅技術者育成から、産業構造や技術レベルも大きく進展しています。現在はあらゆる分野において、SDGsへの取組を意識しながら、各分野においてDX（デジタルトランスフォーメーション）がもたらす可能性を追求して、その実現に技術者の果たす役割が期待されています。高専教育における人材育成は、学生が育ち成長する機会を与え、社会が健康で持続的にwell-being（本質的に満たされた状態）に向けて新しい価値を創出する技術者（Social Doctors）としての役割を担うことになります。

これから先行き不透明な時代を切り拓くためには、専門的な知識・能力に加えて、「十全に生きる」ために知識・能力・価値観・態度を身につけるためのリベラルアーツ教育や、世の中を変えていくアントレプレナーシップ（起業家）精神などが求められています。これらの実現には、授業やキャンパスの活動に加えて地域社会や卒業生などの支援が不可欠です。高専教育は、教室や実験室などで学んだ知識を、地域社会の課題解決に繋げる多くの経験を持っています。これらの市民的責任や社会的役割を通して、社会や自らのwell-beingにどのように関係するかを体験的に学ぶことも重要であり、様々な教育活動へ比較的容易に実践可能です。

今年度の終わりに際して、学生の皆さんには、1年間を振り返り新たな年度に向けて準備を進めてください。特に、卒業および修了される方々には、苦楽と共にした同窓生との絆を思い出し、新しい社会で大いなる夢を持って、様々なことに気づき学び続ける意思を持ち続けてください。すべての結果には過程があります。今の生き方が10年後に繋がります。コロナ禍という困難に挑戦して、幸せになるためには望ましい人間関係が必要です。今、我々はマスクをしていますが、これからも自分を守るために「心のマスク」を忘れないように、数多くのよい出会いに恵まれることを願っています。

最後に、保護者の皆様には、改めて本校の教育・研究活動へのご理解とご協力に感謝を申し上げるとともに、今後ともご支援をよろしくお願いします。

学内動向

教務主事 松崎 賦

教務の現場から



前期は、まず学内体制を整備しました。対面/遠隔授業システム、Teamsによる学生への連絡およびFormsによる各種手続き、低学年・高学年別時間帯の定期試験、遠隔授業支援等のためのFDなどです。学外対応としては、オープンキャンパス（感染防止のため引率形式/ヴァーチャル版も作成）や進学説明会など、いずれも盛況でした。これらは、教務関係教職員の献身があつてこそ成し得たものです。

後期は、全国高専レベルでの教務関連事業にも取り組んでいます。例えば、数理データサイエンスAI 教育プログラム認定制度申請（データを分析し使いこなす能力の養成のため文科省が大学・高専の教育プログラムを審査・認定）。ちなみに私は、この分野の素人なので、若手から「ほら、これ読んで」と言われ、「あ、はい」。それで、読んでみると、“強化学習”とか“ディープラーニング”とか、いろいろと面白い。

昔、孔子は言いました。学んでも自分で考えなければ身に付かないし自分で考えるだけで学ばなければ独断に陥る、と。仕事の原理は、極めてシンプルです。

学生さんも将来に備え、学んで考えてください。そして、その営みを、これから入学者の皆さんにも引き継いでいきましょう。本校は、「心と技術の学舎」です。

寮務主事 永野 茂憲



コロナ禍の寮行事

昨年度に引き続き、コロナ禍での開寮となりました。5月に一部分散登校になりましたが、特に低学年生に対し、できる限り対面授業を行う学校方針となり、寮行事も感染防止対策を行ながらの取り組みになりました。本年度実施できた行事を振り返ってみたいと思います。

4/3(土)開寮、4/4(日)入寮式を行い、新入生を迎めました。4/23(金)寮役員交流会を黙食会として半年ぶりに実施。6/29(火)寮生総会を放送総会とし寮長の5C鈴木君を中心無事実施できました。7/9(金)映画観賞会邦画：『糸』を上映(寮食堂)。7/10(土)昨年は実施できなかった寮祭を日中は体育館、夕刻からは花火を実施、寮祭実行委員の4M歳川君を中心に無事成功に導いてくれました。7/20(火)・7/27(火)国際寮の内覧会を女子寮生に対し実施しました。9/25(土)・9/26(日)後期開寮。10/13(水)寮役員選挙。11/10(水)寮生総会を実施。11/16(火)寮役員委嘱式(校長室)を実施しました。12/15(水)寮防災訓練、都城北消防署の方にもご指導いただきました。12/16(木)クリスマスイベントとしてステーキとケーキのスペシャルメニューを昼食に実施。コロナ禍にて中止した夜間ハイク(11/5(金))は、代替イベント『焼き芋会とクリスマス会』として、新寮生会を中心に開催しました。

以上のように昨年度、コロナ禍を理由に実施できなかった企画が寮生会を中心に実施することができました。新旧寮生会役員の皆様に感謝するとともに、非力な寮務主事を支えていただきました寮務主事補の先生方、寮事務室事務員の皆様に深く感謝申し上げます。

学生主事 永松 幸一

新たな学校生活 に向けて



今年度4月より学生主事を拝命しております一般科目の永松と申します。

昨年度から「コロナ禍」、「withコロナ」の真っ只中ではあります。学内における感染対策を継続し、「ワクチン接種」、「新しい生活様式の定着」等により、学校生活にも少しずつ賑わいや新しい方向性が出てきたように感じています。

年度当初2ヶ月ほどは、新たな感染拡大に備え、学内での各種指導や巡回、Teams等を用いた一斉連絡、マスク越しでの挨拶励行等、学校生活の安全安心に注力しました。

課外活動においては、各顧問と学生で感染対策を共有し、それらをFormsでチェック及び管理する体制を整備しました。高体連主催大会では、水泳部や弓道部が優秀な成績を収め、現在は地区高専代替大会や高体連等大会に出場可能な状況であり、柔道部・剣道部・サッカーチームが全国高専大会にも出場しております。

代表的な学生会行事である「クラスマッチ」、「体育競技会」、「文化祭」をほぼ予定通り実施できました。それぞれ実行委員長を中心に、コロナ禍でも盛り上がるコンテンツや実施方法を考え、教職員と協議し、短い時間の中で無事にやり遂げることができたことは、今後の学生会行事実施に向けた新たな展開の可能性を感じさせてくれました。

専攻科長 野地 英樹



九大-高専連携教育 プログラムについて

九州大学工学部（以下、九大）と九州・沖縄地区9高専が連携した教育プログラムは、2023年度の始動を前に、2022年度はプログラムへの入学を希望する5年生を対象に入試が行われます。

本プログラムに入学できるのは、専攻科推薦選抜の中で行われる第一次選抜（本校）と、第二次選抜（九大）を合格した若干名となっています（九州・沖縄地区全体で定員20名）。これらの学生は1年次に本校専攻科で学びながら、研究基礎力を身につけます。そして、2年次からは九大筑紫キャンパスで本格的な研究活動を行います。プログラム修了の暁には、本校専攻科の修了証書だけではなく、九大から学士号が授与されます。プログラム修了後の進路は、九大大学院への優先的な進学が可能となり、将来、新たな価値観や他分野への展開を創造できる研究開発者になることが期待されています。

2021年度には、11名の学生により九大での夏季インターンシップが行われ、冬から春にかけて研究室訪問（リモート）が行われています。また、本プログラムを「特別進学コース（仮称）」とし、2年間でどのような科目を何単位修得するかを示す教育課程表が作成されています。本プログラムを修了するための修了要件も検討されており、着々と準備が進んでいます。

ようこそ学生相談支援室へ

三人寄れば文殊の知恵

皆様は、学生相談支援室を利用していますか。本校の支援室の相談件数は、例年約200件だったところが、令和2年度は299件と急増し、令和3年度もさらに増加する見込みです。コロナ禍もありましたが、身近な相談室に近づいている証左であると言えます。

学生相談支援室では、「ここでの専門家」と言われる臨床心理士、公認心理師のスクールカウンセラー（S C）と、困りごとの解決・支援の専門家である社会福祉士のスクールソーシャルワーカー（S S W）と相談・面談したり、その後の支援を受けたりすることができます。以上の専門家は、毎週それぞれ1回来校して、相談支援業務にあたっています。「聞く力」のプロである S C、S S W に話や悩みを聞いてもらうことで、問題が整理でき、解決までの見通しが立つて心が軽く感じることができます。

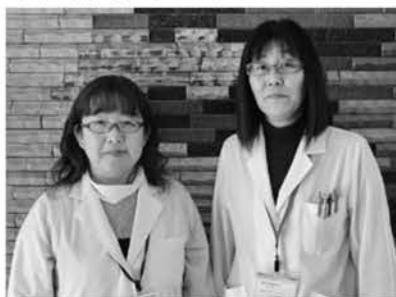
令和2年度からは、オンラインによるテレビ会議システムを使った面談も行っています。学生のみならず、保護者の皆様、卒業後のO B・O Gの相談・面談にも無料で対応することができます。

学生相談支援室は保健室を窓口とし、室長、内部相談員（教員）、看護師が常勤のスタッフとして務めています。看護師は言うまでもなく医療・保健の専門家ですが、教員である室長及び内部相談員は、専門職スタッフと協同し、「つなぐ力」で問題解決のために様々な部署に働きかけを行います。専門家と情報共有した上で、関係者との連携がうまく成り立って、学生を見守ることができると考えています。相談者と、こころ及び支援の専門家と、教員の三者が寄り合えば、問題解決に向けた大きな知恵が生まれるのです。

今回の学園だよりでは、窓口のインテーカーとして長年尽力いただき定年を迎える森岡看護師と、新しくSCとして着任いただいた坂邊カウンセラーの紹介をいたします。

昨年度は新型コロナウイルスの感染が拡大し、学校はやむを得ず休校措置や学校行事の中止を決めました。学校が再開した際も、感染防止のため、毎朝の検温報告、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保や集会の制限など、今までの当たり前の学校生活が変化し、先の見えない不安とともに、日常がこれまで経験したことのないものになってしまいました。困りごとを気楽に誰かと対面で話す機会が大幅に減少し、友人の行動を直接見て物事を判断することもできなくなり、学生さんの悩みが変化してきたように感じます。

コロナ禍において、学生相談支援室はリモートによる相談体制を整備し、カウンセラーとの顔合わせやアンケート結果に基づく呼び出しを強化しました。



友人とのお喋りや、直接相手の顔を見て相談し、相手の反応を感じることが重要です。何か不安なことや困りごとがありましたら、気軽に話をしに来てください。



学生相談支援室長
武田誠司

本校は、幅広い年齢の学生さんが在籍しています。皆さん、それぞれの年齢や状況に相応の困りごとや悩みごとをお持ちです。悩みというほどではなくても、ちょっとしたモヤモヤやイライラは誰にでもあるものです。皆さんの年代では、一番の相談相手は「友人」である割合が高いのですが、ご家族や先生方も含め、身近な人にこそ心配をかけたくないとか、自分のいつもと違う側面を知られるのには抵抗があるなどの理由で悩みを打ち明けられないことは多いものです。そんな時には、スクールカウンセラーを活用してみることをお勧めします。

もしかしたら「スクールカウンセラーに相談」と聞くと、「そんな大袈裟な」という感覚があり、すぐに行ってみようとは思えないかもしれません。しかし、困りごとや悩みごとは放置すると雪だるま式に大きくなってしまうのですし、自分自身に解決力がないような錯覚に陥ってしまいがちです。虫歯の治療と同じで、早い段階で相談をしてみることが事態の深刻化を防ぎ短期間での回復につながります。散歩のついでに楽信館2階の相談室のぞいてみませんか？相談は、遠隔でも対応が可能です。保護者の方からのご相談もお受けできますので、お気軽にご利用ください。



坂邊 夕子 S C

学生相談室の利用について



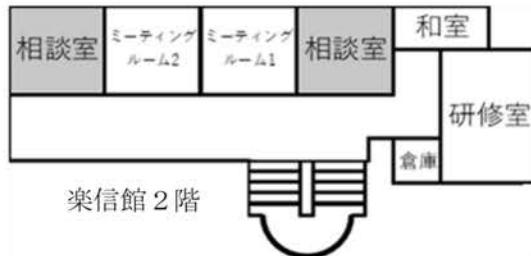
毎日の生活中で出会う様々な問題や悩みについて、相談室スタッフと一緒に話し合っていきましょう。

相談の申込は以下の方法で受け付けています。

- 直接スタッフへ：武田室長、田村相談員、看護師へ
- 電話による申込：0986-47-1156
- Eメールによる申込：soudan@cc.miyanonojo-nct.ac.jp

勉強、進路、交友関係、クラブ活動、自分の性格など悩み多い学生生活ですが、誰かに聞いてもらうだけでも気持ちが楽になるものですよ。相談内容の秘密は厳重に守ります。安心して相談に来てください。

相談室の場所はこちら



着任挨拶

新しい風となって・・・

今年4月から建築学科教員になりました横山秀樹です。

本校学生として、昭和54年4月に入学し、昭和59年3月に卒業。その間、学生寮に入り、バスケットボール部に所属、1年生の時から建築学科応援団員を、3年生後期途中から学生会長を務め、一般学生より青春時代を謳歌できたと思っています。

前職は、鹿児島県職員（高校教員・管理職員、行政技術職員）でした。

38年ぶりに母校へ帰り、既に8ヶ月が経過しましたが、諺「犬も歩けば棒に当たる。」のとおり、以前の本校との違い、また前職との違いに驚いています。

この着任挨拶も「えっ、今頃？」前職では、遅くとも5月に発行されるような企画が、11月中旬に原稿依頼があり面食らいました。4月以降、同じようなことが、至るところで・・・。

本当にこれでいいのか？と思う所が目立ちますが、それに馴染むことなく、人事異動の少ない本校に、新しい風を吹き込む役割を担おうと考えています。

ところで、本校に対して「学生・保護者が期待するもの」は一体何か？

それは「専門分野における英才教育」だろうと思います。

私も両親もそうでした。多分、本校在籍の学生・保護者も同じではないかと思います。

高校教育と建築実務の実践技術者としての経験から、国家資格の取得など、本校教育理念の「実践技術者の育成」をもっと推進したいものです。

あと僅か5年程度の任期ですが、本校の課題を把握し、精一杯「新しい風」となって、「後輩のための英才教育」に努めたいと考えています。

どうぞ、よろしくお願いします。



建築学科
横山 秀樹

着任のご挨拶

令和3年度4月に機械工学科に着任しました橋口武尊と申します。私は2009年に本校を卒業し、進学及び民間企業での経験を経て母校へ戻ってきました。

高専在学時は先生になることを微塵も考えておらず、航空整備士になることを目指していました。この仕事に就くためには大学に進学した方が有利であると思い、九州内の大学に進学しましたが、研究設備の設計に携わった際に経験した楽しさから考えが一変し、設備設計者を目指すことにしました。大学卒業後は非鉄金属を製造するメーカーへ就職し、そこでは念願であった設備設計を担当することができました。設備設計では、高専や大学で学んだ専門知識の活用の他に、設備導入時に遵守すべき法規則や、製作コスト、現場作業者の使いやすさを考慮する必要がありました。更に設備設計の際は、上司から「なぜその設計なのか」と問われるが多く、根拠のない設計を行った際は厳しい指導がありました。この経験から、設計者には根拠のある考えができることが重要だと感じ、このことを教えられるようになると決意しました。ちょうどその頃、人に教える仕事ができたらと思い、たまたまあった求人を見たところ、母校の教員募集について掲載っていました。何かの運命かと思い、応募したところ、見事合格し、晴れて母校の教員として着任することができました。

私が担当する授業では専門知識に関するこの他、根拠のある考えができるよう学生に教えていきたいと思います。不慣れな部分もあり、ご迷惑をおかけするかもしれません、今後もよろしくお願いします。



機械工学科
橋口 武尊

着任のご挨拶

令和3年度4月に一般科目に着任いたしました阿部敏生と申します。私は昨年度に横浜国立大学で博士号を取得し、本年度から数学科の教員として都城高専で働かせて頂くことになりました。昨年まで非常勤講師として大学でも数学の指導をしていましたが、世間の情勢等もあってずっと遠隔で授業を行なっていた為、教壇に立って教育指導を行うのは実は教育実習以来の出来事でした。新社会人・新教員として不慣れな事も沢山ありましたが、他の先生方や学生の皆さん、都城高専に関係する多くの方々に支えられてここまでやってこられました。お世話になった方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私の専門はグラフ理論と呼ばれる数学の分野になります。私は数学的な興味関心からグラフ理論の研究を行っていますが、グラフ理論は数学の問題に限らず現実上の多くの問題にも応用がされており、今もなお盛んに理論面・実用面の両方から研究されている分野の一つです。私自身も引き続き数学の研究を続けていくと共に、学生の皆さんにも数学の授業を通して、数学の面白さや魅力、また問題を試行錯誤して解決していく事の大切さを研究者ならではの視点から分かりやすく伝えていきたいと思っています。

まだまだ教員としては不慣れでご迷惑をおかけする場面も多くあるかとは思いますが、学生・学校のために日々精進して参りますので、どうぞ今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



一般科目
阿部 敏生

着任挨拶

着任挨拶

令和3年4月に一般科目理科に着任いたしました、野田宗佑(のだそうすけ)と申します。愛知県一宮市とう岐阜県との県境出身です。高校卒業後は大阪(学部)、名古屋(大学院)、京都(ポスドク)、中国江蘇省揚州市(ポスドク)と色々な場所に住んでまいりましたが、その中でも都城市は一番快適に住める場所だと思います。なぜか数年前から宮崎に旅行に行って高千穂や天孫降臨の場所を巡りたいとずっと思っていました。何もこんな目の前に住むことまでは望んでいなかったのですが、近くに呼んでもらえたような気がしてとても幸せです。

これまでに大学での講義経験はあったものの、10代半ばから後半の学生と関わることが無く、思春期真っ只中の学生と上手く関われるだろうかと着任前には不安でした。しかし実際に来てみると学生はとても人懐っこく、今では彼らとのやり取りがとても楽しく教員としての生活も充実しています。まだ教員として未熟で、ただfriendlyなだけの先生になってしまっていますが、締めるところはきちんと締めていけるようなメリハリがつけられる教員になっていけるよう研鑽を積んでまいりたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



一般科目
野田 宗佑

着任のご挨拶

令和3年4月に技術支援センターの職員として着任いたしました鈴木めぐみと申します。物質工学科の学生の皆さんの実験や研究の補佐を担当しております。

私は1993年度に本校の工業化学科を卒業し、長い間、異業種で働いてきましたが、この度ご縁があり母校で働くことになりました。

着任当初は新しい環境に慣れず、学び直す事も多い怒涛の日々でした。不慣れな事もあり、関わって頂いた先生方や職員の方々にはご迷惑をお掛けしたと思います。その度に親切にご指導頂き大変感謝しております。

現職を始めて思うのは、化学の分野から随分と遠ざかっていた私でも、学生時代に学んだ技術は自分が思っている以上に身についていたということです。今、学生の皆さんのが学んでいる実験や実技は、必ず自分の将来に役立ちますし、社会に貢献できる貴重な財産です。しっかりと意義を持って学んで頂けたら嬉しいです。

私は産休代行としての採用の為、残り限られた期間ではありますが、出来るだけ学生の皆さんと接して、今、学べる大切な将来に向けての一助となるような事をお伝えしていくなら良いなと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



技術支援センター
鈴木 めぐみ

着任のご挨拶

令和3年4月1日より総務課契約係に着任いたしました増田啓太と申します。宮崎大学より人事交流ということでこの度都城高専に着任させていただいております。今回このようなご挨拶の機会をいただきありがとうございます。

私自身生まれも育ちも宮崎県ではあるのですが、都城には今まで全く縁がなかったこともあります、都城高専に赴任して都城の街並みを日々新鮮な気持ちで過ごさせていただいているのです。

都城高専に赴任して9カ月が経過しておりますが、新型コロナウイルスもまだまだ猛威を振るっており、少し落ち着いたかと思えば変異株の出現と一向に終息の目途がつかない日々が続き、教職員の皆様や学生・保護者の皆様の苦労は図り知れないものだと思います。

私自身総務課契約係として、直接学生・保護者の皆様と関わる機会は多くはありませんが、影ながら皆様の学校生活が少しでも充実したものとなるよう日々精進させていただきます。

教職員の皆様におかれましては、慣れないことも多くご迷惑をお掛けいたしますが、お気づきの点等ございましたら遠慮なくお申し付けいただけますと幸いに存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。



契約係
増田 啓太

着任挨拶

都城高専とロボコン

私は、「高専ロボコン」が大好きです。毎年のロボコン大会を楽しみにしています。2018年の「ボトルフリップ」、2019年の「らんらんランドリー」等は特に印象に残っています。今、こうして縁があつて都城高専の職員として仕事をさせて頂いているのですが、あらためて感慨深いものがあります。

私は人事係の仕事をしており、直接高専ロボコンに関わってはいませんが、高専ロボコンの数々の名場面を思い出す時、都城高専が生み出すアイデアや伸び伸びとした表現の自由さがいつも浮かんで来ます。

学校の近くには豊かで肥沃な田畠が広がり、遠く高千穂の峰をはじめ山々が連なる自然のふもとに学校があります。その豊かな自然や恵まれた環境が、学生たちのアイデアや自由闊達さを生み出す源なのかもしれないと思ったりします。

霧のまち都城、肉ペイのまち都城、そして、高専ロボコンのまち都城。

この豊かな大地に立つ都城高専からたくさんのアイデアや優秀な人材がこれまで築立ち、これからもそうでしょう。やがて、時を経て「ふるさと都城」へ人を、知識を、力を還元する。きっと、都城高専にはその大切な役割があるのだろうと思います。

高専ロボコンの一つとして、これからも都城高専を応援しています。



人事係
外山 寿美子

着任のご挨拶

令和3年4月に学生課学生係に着任いたしました小園洸志郎（こぞの こうしろう）と申します。昨年の3月まで一般企業で働いていました。

着任当初は一時期、遠隔授業や分散登校が続いておりましたが、新型コロナウイルスのワクチン接種の効果が現れたのか、感染者の数が減少傾向にあり、近頃は通常通りの登校が可能になってきております。昨年度は中止になってしまった行事関連が、形態を変えて実施が可能になったものもあり、徐々に学内の活気を取り戻しつつあるように感じます。来年度には、今よりも更に活気のある学校生活が待っていることを願っています。

教育関係の現場で働くことは初めてで、学生課に配属されたことで学生との距離が近い仕事ということもあります、とてもやりがいを感じます。同時に、自分の未熟さや力不足を痛感し、周囲の方々へご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ない気持ちです。それでも支えてくださる上司や先生方には本当に感謝しております。自分だけでは成しえなかった業務も周囲の方々のご協力で乗り越えることが出来ました。

都城高専を支えられるような一人前の職員になるために、日々精進して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



学生係
小園 洸志郎

着任のご挨拶

令和3年4月に総務課総務係に着任いたしました吉元 享平と申します。時間が過ぎるのは早く着任して半年以上の時間が経ちました。新社会人として駆け出しで、新しい挑戦のようで新鮮な毎日を過ごさせていただけております。

私は総務係に配属され、調査関係や広報関係の業務で様々な視点から都城高専を知ることができ、ありがたい経験ができると感じます。私自身わからないことが多い、ご迷惑をおかけし申し訳なく思う気持ちとその度にご指導していただけて感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、まだまだ若輩者の私ですが全力で頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



総務係
吉元 享平

着任のご挨拶

令和3年7月より総務課契約係に着任いたしました定益ヨシエと申します。

これまで度重なる手術を繰り返し、ずっと杖生活でした。令和元年に再び大きな手術を受け、辛いリハビリに耐え、今では杖を手放し両手を使えることに新鮮さを感じています。

医者の許可が出て、いざ就職活動という時に、新型コロナウイルス感染拡大で思うように活動できずになりましたが、この度、都城高専にて働かせていただくことになりました。

学校事務という初めての経験で戸惑いながらも、日々勉強の毎日で業務に取り組んでいます。まだまだ間違ことが多い、周りの方々にご迷惑をお掛けしておりますが、精一杯頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



契約係
定益 ヨシエ

子曰、「学而不思則罔。思而不學則殆。」

5年担任 高木 夏樹

皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましても、心よりお祝い申し上げますと共に、学生を見守り、本校を支えていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

縁あってこの2年、担任を務めさせていただきました。これが私としては初めての担任経験でした。振り返ってみると、昨年度の当初から異例の対応続きとなりました。ちょうど国内での新型コロナウィルス感染症の最初の流行が始まった頃です。本校としても未曾有の事態であり、その危機対応や今後の授業実施に向けた協議・準備のため、止む無く4月は臨時の休校措置となり、初年の担任クラスである機械工学科4年生と1度も対面することのない学期のスタートとなってしまいました。

4年生の時期は非常に重要な時期です。専門科目が大きく増えて学ぶ内容もより工学的な深みを持つようになります。インターンシップでの体験や部活動、文化祭・高専祭、体育競技会などの活動で中心的な役割を担うことと様々な経験をして人間的にも大きく成長し、かつ進路選択という重大な判断を迫られます。しかし、前述の新型コロナウィルス感染症拡大による大きな行動制約が発生しました。授業はグループウェアであるMicrosoft Teamsを用いてオンデマンドで行われ、実験・実習を含めたほとんどの科目が遠隔対応となりました。インターンシップはほぼ中止や延期、もしくは数日間のオンライン対応となり、その内容のほとんどが企業の概要説明やグループディスカッションでした。現場の雰囲気を感じることや実務の経験、職場のエンジニアやOB・OGなどとの直接的な触れ合いができないまま、そのほとんどが終わってしまいました。部活動もほとんどできず、大会も中止や延期の対応となりました。高専祭も中止となってしまい、その活動の目玉であった4年生研究発表も実施が叶いませんでした。さらに、例年の学年末に実施されていた関西方面への工場見学旅行も計画すらできませんでした。

そのような中にあって、担任としては拙くもオンラインでの面談やチャットなどにより意思疎通を図り、学生としては各家庭で自己管理をしつつオンライン教材での学習と課題提出に取り組むことで、無事クラスの全員が5年生に進級することができました。この中で、後期の10月から12月にかけては幸いにも学校での対面授業も行

われ、進路指導を対面でできる時間が確保できました。さらに、同期間では体育競技会やクラスマッチも開催され、学生達の頑張りと元気を間近で強く感じることができました。

皆さんに5年生に進級してからは、5月こそ完全遠隔授業対応となりましたが、ほぼ対面での授業となり、卒業研究や就職・編入学試験などで慌ただしく歳月が流れたように感じます。進路活動においては、例年よりも学生の活動量を少なく感じ内心焦りました。これは、遠隔授業が長く続いたことにより、その活動に向かう雰囲気を集団として形成し辛かったことと、私の指導力不足もあったと深く反省しています。ですが、結果的には、ほとんどの学生が希望する企業の内定ないしは大学・本校専攻科の合格を得ることができ、担任として一安心しています。

この2年、糾余曲折はありましたが、こうして卒業を迎えることができたことは、偏に皆さんの頑張り・努力の結果であろうと思います。一方で、本校教職員・ご家族の温かい支援があったことを忘れず、「感謝」の気持ちを大切に社会で活躍してもらえたならと思います。

最後に、普段からデジタルツールやインターネットの情報を直ぐに活用できる皆さんの姿に逞しさを感じると共に、一抹の不安もありましたので、ここは古典に還り、本文のタイトルとして締めさせていただきます。これは中国の古典、『論語』にある有名な一節の白文（原文）です。教養としても、エンジニアの姿勢としても大事かと思いますので、是非その意味を読み解き、大事にしてほしいと思います。



未来へのステップ

5年担任 濱田 次男

卒業おめでとう。長かった5年間が過ぎようとしている。窓の外を見ると日毎に春らしくなり、すべてが動き始める自然の鼓動を感じられるようになった。今年度の卒業生、思い起こせば3学年修了時から新型コロナに翻弄された学生たちである。それまでの日常とは異なり、不安で先の見えない学生生活を強いられた。そして寄せては返す波のようにいくつかのピークが過ぎた。最近ではワクチンや経口薬が開発され、新型コロナは収束しないものの少しばかり先に光が見えるようになった。

その新型コロナの影響から多くの科目で遠隔授業が実施された。教える側もうまく勝手に行かず短期間での教材開発が逆に要求され、毎日朝から晩までコンピュータの子守役となって自転車操業の日々が続いた。教える教科の本質は何か？どの教科へ繋ぐのか？どのレベルを求めるのか？こんなことを考えると先へ進まない。それならいっそ何も知らないという前提で作るしかなく、負荷、疲労共にさらに増すばかりだったことが思い出される。そんなとき、一息入れると少し古い曲が頭を過る。

♪ 教えられたものだけじゃ いまいち完成しないんだ
計算はあってるはずなのに 型にはめ込まれたって
・・・・・・・ 夢をみては打ちひしがれて 立ち上がつてはまた憧れてさまよって 自分を知った気になって
また分からなくなる そんな 青い春と言う名のダンス
を 踊りながら・・・ ♪ 「青い春」 covered by Uru

学校で学ぶことは、その分野の単に“いろは”に過ぎず完成形ではない。これからは、それを基に各人のやり方でいろいろ補完しながらストーリーを完成させる時期だと思う。そのストーリーは、時間と共に変化する進行形で、終わりのないものもある。例えば、身近な話と

して電信技術の象徴電話は、昭和の時代固定電話が当たり前に各家庭にあったが、今では博物館の展示品として当たり前となった。そして、スマートフォンが個人の持ち物となつたことからも理解される。ところで、理工系の分野では、その多くの分野の考え方方に国境はなく、独自のストーリーを表現することで自らの立ち位置が分かるようになる。つまり、それに対する外部の受け取り方は様々で、全く異なる意味に取られてしまうこともあるし、逆の場合も当然ある。時間はかかるが一喜一憂しながらやっと物事、世の中がわかるようになる。人によっては、これまで自らの意にそぐわないダンスを踊らされたかもしれないが、一步外に出ればいきなり完成したダンスステップを求められることもある。しかし、どんなことにも柔軟に対応しながら、青い春を生きている今だからこそ将来の糧になるダンスを踊り、己の考えをしっかりと表現したストーリーを作ることが大事だろう。一生懸命やったことに無駄は無く、いつかどこかで形を変えて必ず役立つものが得られるからである。そして青い春が終わる頃には、手を添えられなくても独自の軽やかなステップで人を魅了するものが踊れることだろう。

さて、何回目の5年担任だったのだろうか。数えると両手では余るが片手では足りない。今となれば、これまでのどのクラスも個性派揃いの面々が思い出される。ただ、今回だけは新型コロナの影響で特に強い印象に残るクラスとなった。また、学ぶこともたくさんあった。新型コロナが普通の風邪になったら、学校を訪れて近況を知らせてください。最後になりましたが、皆さんのが今後の活躍を願っています。



卒業に向けて

5年担任 金澤 亮一

物質工学科5年のみなさん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも併せて心よりお祝い申し上げます。新たなる門出に際し、少しだけですが文章を書かせていただきます。

みなさまにおかれましては大変な高専生活だった思います。4年次、5年次の高学年のすべてをコロナ禍で過ごし、慣れない遠隔授業を受けつつ、多くの行事が中止、または縮小となっていきました。コロナ禍前の低学年時に比べると圧倒的に物足りない学生生活だったかもしれません。勉強も大変だったかもしれません。それでも、なんとかできる形で工夫を凝らし、授業や行事をこなしていった経験は、忘れることのできない思い出になるのではないかでしょうか。

就職および進学活動においても新型コロナの影響は大きく表れたように感じます。就職活動においては、従来は4年次に多くの企業説明を聞き、企業研究を行って進路決定の参考にするはずですが、それも新型コロナの影響であり満足に行えませんでした。情報が少ない中で進路を決めなくてはならず、大変だったと思います。最終的な進路を決定する保護者面談をはじめ、模擬面接などもすべてオンラインで実施しましたし、受験した企業によっては一度も企業を訪問することなく、採用活動の全てがオンラインで完結したところもあったと思います。Web面接ではなかなか自分を出せなかった面もあったかもしれません。ただ、みんなの多くが不慣れな環境でも諦めることなく、活動できたように思います。

進学活動においても、本年度は多くの大学で受験者が増えており、倍率が上昇し、苦戦したところもあるよう感じました。

5年物質工学科のみなさんとは、私の人事交流が終了し、東京高専から3年ぶりに都城高専に帰ってきて、設計・製図の授業を受け持った時だったように思います。みなさんは2年生でした。異様に細かく厳しく製図をチェックする人という印象があるかもしれません。思い

返すと、あの頃に比べるとずいぶんとしっかりした学生が増えたと思います。2年次から5年次までの数年でこれだけしっかりとした大人になったのですから、卒業後も数年でさらに見違えるようになっているんだろうと今から楽しみにしています。

みなさんの卒業後もこの新型コロナの影響は続くかもしれません。就職先、進学先においても、このコロナ禍での2年間の経験は大きな財産になると思います。できることを工夫してやる、それは当たり前のことですが、それ以上に自分で考え、行動することがもっと重要な社会になっていくと感じます。学生生活、特に皆さんのが経験してきた小学校、中学校、高専においては、受け身の姿勢であることが多かったと思います。例えば、高専を受験する際にも、中学校の先生が面接の練習をする機会を作ってくれたのではないでしょうか。ただ、これからはあらゆる面において受け身の姿勢でいる限り、永久に順番が回ってこないかもしれません。就職、進学活動においても受け身の姿勢を脱却し、自分から動いて練習や対策に臨めた人とそうでない人に大きく分かれたように思います。

これから社会は、新型コロナの影響を含め、それに派生して生じる事象で激動の社会になるかもしれません。予想だにしない出来事が次々と起こり、激流のような時代になるかもしれません。ただ、どんな社会になつても、できることを工夫し、なんとか食らいついでいたこの高学年の2年間を忘れず、受け身の姿勢ではなく攻めの姿勢で対応すれば、きっと乗り切れると思います。激動の時代におけるみなさまの華々しい活躍を期待いたします。最後にもう一度、ご卒業おめでとうございます。



皆さんの門出を祝して

5年担任 杉本 弘文

建築学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。併せて、保護者の皆さんにも心よりお祝い申し上げます。

私にとっては初めての4・5年生の担任となりましたが、昨年度は新型コロナウィルス感染拡大の影響を受け、あまり皆さんと対面でお話しする機会も持てないまま、あつという間に時間が流れていきました。担任として力が足りない点、不甲斐ない点も多々あり、様々な場面で皆さんには御心配・御迷惑をお掛けしたかと思います。不躾ではありますが、本紙上を借りて深くお詫び申し上げると共に、皆さんのご協力とお力添えにより何とか2年間を乗り切れたこと、感謝の念に堪えません。

4年時には初めての遠隔授業が始まり、これまでにならないスタイルでの学校生活となりました。また、殆どの学校行事も延期もしくは中止となり、クラスの仲間とも顔を合わせる機会が極端に減り、あらゆる場面でストレスや不安を感じて過ごされたことだと思います。5年時になり、新型コロナウィルスも落ち着くかと思いきや、感染再拡大により再び遠隔授業となり、就職活動についてもオンライン対応が多くなり、学生の皆さんも苦労したと思います。そのような中でも多くの学生が順調に進路先を決定していくことは、皆さんの努力と実力はもとより、既に企業・大学等で活躍されているOB、OGの先輩の方々のお力があつてこそと感謝しています。

新型コロナウィルスに振り回され続けた2年間だったかと思いますが、皆さんの目には今後の社会・未来はどう映っているのでしょうか?そこに夢は見れていますか?私自身の思いについても皆さんの卒業に寄せて記しておきたいと思います。

新型コロナウィルスの感染拡大で、様々な社会構造や慣習の問題がクローズアップされました。また、人々の価値観さえも変換していくことに直面したかと思います。世界中の人々にとって経験をしたことがない状況のなかであらゆる変革が求められ、それに対する人々の批判や不満も多く出てきている今日ですが、その根本にあるものは何なのか、一研究者として建築人としてどこにアプローチしていくべきなのか、考え続ける日々です。目の前で起こった物事に対する批判や批評で終わっては永遠に豊かな未来はやってきません。評論家ではなく、私たち一人一人に、ものづくり・ひとつづくり・みらいづくりのプレーヤーとしての資質が問われています。

これからも様々な環境変化が皆さんの中にも表れるで

しょう。仕事だけでなく人生において、どのように環境に適応し、さらには自分自身でより良い環境にしていくことができるか、自分自身で環境をつくっていく力があるか、が問われる時代になったと言えるのかもしれません。与えられた現状に満足していくはきっと周りに置いて行かれる世界がやってきます。(もうやるべきているかも…)



見えないものに立ち向かうには、その人自身の情熱や勇気、何より信念が求められます。きっとそれらを育てることが立ちはだかる不安に立ち向かう力をくれると思います。常に新しいものに挑戦する、新しい価値を生み出すメンタリティを忘れずに突き進んでください。私はこんな状況でこそ、新しい価値や社会的イノベーションは起るものだと思います。すでにその兆候は見えてきているはず。その中心で活躍できる人材こそ高専生であつて欲しいし、そのポテンシャルは大いに秘めていると思います。

追い込まれた時にこそ、思考停止にならず、常に考え方行動し「実践的技術者」として未来を切り開いてください。

改めて卒業おめでとうございます。しかし、今がスタートラインです。自分で自分の限界をつくることなく、常に限界のちょっと先へ挑戦する。その積み重ねが後に未来を切り開くタカラになります。そして、正しいことを正しくブレずにやり続けていれば必ず同じ志を持ったエネルギーのある人たちが集まります。高専で共に学んだクラスメイトも含め、志を同じくする仲間は一生のタカラです。そのためには感謝を忘れず人の気持ちをしっかりと捉えらるる目と心を是非社会で培ってください。高い専門的知識・技術を持ったうえでそれが出来るようになればITやAIがいかに進歩しうるが、その一步先をいける人材になります。

建築はそのものの自体が未来に残る素晴らしい仕事、人や社会の未来を変える力があるのだ信じています。だからこそ責任感と使命感をもって仕事に取り組んでください。みんなが夢を見れる社会・未来をつくる建築人になってください。

皆さんの今後益々の成長とご活躍を祈念致します。

今後の活躍に期待を寄せて

専攻主任 土井 猛志

専攻科ご修了、誠におめでとうございます。また、ご家族の皆様におかれましても、お子様のご修了にあたりお慶びもひとしおのことと拝察申し上げますとともに、心よりお祝い申し上げます。小生におきましては、今年度はじめて専攻主任（担任）を仰せつかり、皆さんをはじめご家族の皆さんには随分不安な思いをさせてしまったことも多かったのではないかと深くお詫び申し上げる次第です。そのような中、皆さんに支えられて担任ができましたこと、厚くお礼申し上げます。皆さんのご修了にあたり、本科も含めたこれまでの七年間を、教科担当として、そして、ご縁があつて修了年度に担任として関わってきた中で感じたことを振り返ってみたいと思います。

平成27年4月、皆さんは本科1年生として本校に入学され、奇しくも、小生が学生主事1年目をスタートさせた年でした。入学式での初々しさや、希望をもって入学された様子が思い出されると同時に、小生も同じ1年生のつもりで頑張ろうと決意したことを記憶しています。また、その後に行われた1年生研修については、従来は宿泊を伴う研修（1泊2日）でしたが、その年度から本校を研修場所とした1日間での実施となった年でした。新入生諸君が早く高専生活に馴染むことができるよう、南九州大学の宮内先生にご指導賜り新しいレクリエーションを導入し、同大学の教育学科4年生（8名）にご協力いただき、体育館の中で様々なワークショップを行ったことがつい先日のことのようです。考えてみれば、皆さんはその時の大学4年生と同じ年齢になられて

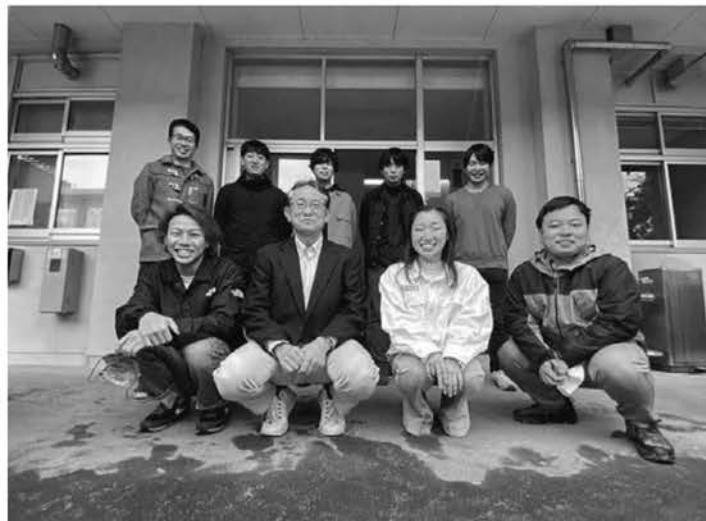
いるわけですから、時が経つのは本当に早いものだと一人感慨に耽る今日この頃です。

また、本科4年次開講「創造設計」では、慣れないグループワークの中で、許可をいただきつつ早朝から深夜にわたり製作を行い、競技会では大いに盛り上がったことが思い出されます。教科担当として、当時の同級生を含め皆さん的能力の高さを大いに感じ、非常に感動したことを覚えています。

皆さんが専攻科に入学された令和2年4月、COVID-19の影響により世界的規模であらゆる活動の制限や自粛が求められ、様々な社会的仕組み、生活様式、さらには価値観さえも転換していくことが求められる年となりました。本校では、教育が止まらぬよう遠隔授業等を導入し、皆さんにはそれに柔軟に対応していただきました。そのような中で、忍耐強く特別研究を進めていくことも本当に大変であったろうと思います。さらに、「創造デザイン演習」では、他専攻の学生と協働しながら粘り強く取り組まれており、今後の社会を担う人材として頼もしく感じた次第です。また一方で、社会が混乱する中にあっても、並行して今後の進路のことを考えていくことが求められましたが、皆さんのが能力の高さゆえに、企業への就職および大学院への進学を決められたことをとても喜ばしく感じるとともに、担任として感謝申し上げる次第です。

本拙文を執筆している段階において、日本は他国と比べCOVID-19に関する感染状況は少し落ち込んでいるように感じられます。しかしながら、この状態が今後も維持されるものかどうかは予断を許さず、前述したとおり、これからも価値観の転換が求められていくことに変更はないと思われます。それに対し、臨機応変かつ、より柔軟に対応していくとは必須となるでしょう。皆さんには、これから各自の進路先におかれましても、これまでと同じく「しなやかに」、そして「逞しく」歩んでいかれることを期待しております。

最後に、終わりの見えない混沌とした今の状況ではありますかが、自身に見えて現実もその把握の仕方で変わることを認識し、希望をもってあらゆる困難を乗り越えていかれることを祈念申し上げ終わりといたします。



2年間の進路指導について

専攻主任 赤木 洋二

昨年に引き続き専攻主任(専攻科の担任)となりましたが、最も重要な仕事の一つである進路指導について、その内容を振り返ってみたいと思います。

専攻科一年生には、入学して間もないですが、すぐに進路についての指導を開始します。理由は、夏休みに実施するインターンシップでの経験が進路を決定する上で重要なからです。現在の研究である超電導の研究を継続し、エネルギー問題の解決をしたい、東京を訪れた時の電車の運転管理のすごさを感じ、それを支える電車の交通システムの制御を行いたい、宇宙開発の夢をもって高専に入学したが、それを叶えたるため惑星ロボットの制御をする技術を身に付けたい、海外で仕事をしたく海外企業でのインターンシップも経験したことがあるが、自分に向いている仕事内容(職種)を考えたい、児童虐待の解決を工学的な技術を生かして実現したい、といった希望がありました。これらの希望を引き出すために面談を繰り返したり、希望と違うインターンシップ先を選んでくる学生への指導を繰り返したり、志望動機の添削をしたりと、学生によって指導内容はいろいろで、また受け入れが可能かどうか、問い合わせや調整が必要な場合もあります。そのような中、その先の進路を見据え、それぞれの学生の希望にできるだけ近い内容を実施していただける企業や大学を、学生と一緒にになって選ぶことができたのではないかと思います。

専攻科二年生は、一年生で行なったインターンシップとともに進路について振り返ってみたいと思います。これまで培ってきた制御技術を生かして、生産設備等の制御を行う仕事に就きたい、と考えインターンシップにいった学生は、その後、専攻科での研究内容である半導体集積回路のシミュレーションが楽しくなり、実際に半導体集積回路を設計してみたいと考え、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリングに就職することが決まりました。また、ソフト開発に興味を持ちインターンシップに行った学生は、その時のイン

ターンシップの内容であるモバイルのアプリケーションソフト開発を行いたいと思い、インターンシップ先でもあるアイ・エス・ピーに就職が決まりました。電力・エネルギー関連の仕事をしたいが、まだ十分に将来のことが定まっていない学生は、電力関連の企業2社、1大学でのインターンシップを経験し、その後、専攻科での超電導の研究の継続を希望し、九州大学大学院への進学に決まりました。

このように学生一人ひとりの希望を叶えるために重要なのは、その時に興味を持っていることをしっかりと引き出してやることになります。専攻科生であれば、本科の時に、一度、進路の選択をしますので、それなりの考えを持っていますが、それでも進路についての考えが不十分なことも多いものです。本来、それを補うのが、本科で行うキャリア支援で、特に3年生までに実施する内容が重要ですが、学生自身の取り組み方によって、効果が十分に得られないことがあります。今年度の専攻科2年生である3名の学生はすべて第一希望の進路先に合格することができましたが、そこに行き着くために、準備に多くの時間をかけてきました。これを読んでいる本科生には、是非とも、自分の進路について真剣に考え、行動を起こして欲しいと思います。

専攻科二年生はこれから新たな進路に進みますが、今後もいろんな岐路が待ち構えていること思います。その時に、最善の道を選べるよう、今後も自身のキャリアを考え続けるようにしていくと良いと思います。修了生のみなさんの今後の活躍を祈念いたします。



修了に寄せて

専攻主任 清山 史郎

物質工学専攻修了生の皆さん、専攻科修了おめでとうございます。また、保護者の皆様おかれましても、お子様の修了を心からお祝い申し上げます。

皆さんは、人生の成長著しい7年間をこの都城高専で過ごしました。最初は、非常に簡単な内容からスタートした実験も学年を追うごとに専門的になり、4年生では、通常の19歳では取り扱うことのない高額な分析装置を用いた実験を行い、5年生では1年間を通して行った卒業研究を論文としてまとめ、立派な卒業研究発表を見せてくれました。私の高専赴任当初からの感想ですが、高専生は5年間のうちに（知らない間に）立派な技術を身につけていると感じます。特に卒業研究を経験すると、体が技術を覚えているような感覚を受けます。これらを経験した皆さんは専攻科へ進学し、更に自分を高めようと努力してきたと思います。専攻科では、これまで

に経験したことのない、他専攻の学生と協力してものづくりを行う創造デザイン演習や、必修項目である、実務実習、学会発表等を通して、多くの困難や苦労に直面したかと思います。多くの失敗や苦労は、自分を成長させてくれます。



話は変わりますが、皆さんにとっては、新型コロナウィルスの影響ですべてが通常とは異なってしまいました。専攻科1年時には、入学式が実施されず、年度当初から授業がスタートできないまま、5月に授業が始まってもこれまで経験したことのない遠隔での授業でした。また、研究する時間を奪われ、半年以上、何もできなかつた人もいるでしょう。このような状況下でも新島二葉さんと前田稜太君が長岡技術科学大学で開催された国際会議5th STI-Gigaku 2020で「Best Research Presentation Award by Sumitomo Riko Company Limited（住友理工学賞）」を受賞、前田稜太君が「令和2年度国立高等専門学校機構学生表彰」を受賞、同じく前田稜太君が第55回日本水環境学会で年会学生ポスター賞（ライオン賞）を受賞するなど、研究面で大きな活躍を見せました。他の修了生も学会での発表を経験し、十分な実力を身に着けたと思います。

皆さんは都城高専を修了し、3名が就職（（株）九州大真空、久光製薬（株）、日東電工（株））し、5名が進学（東京工業大学大学院（2名）、九州大学大学院、東北大学大学院、大阪大学大学院）となりました。中学卒業以来、7年間という長い間、同じ場所にいた皆さんにとって、新しい環境に向かうことは大きな不安があることだと思いますが、これも経験です。

最後に、専攻科生、本科生問わずに、卒業生には同じ言葉を贈っていますので、それを書いておきます。若いうちに多くの失敗を経験してください。失敗はチャレンジしなければなりません。チャレンジ精神のない人と仕事をしたいと思う人はいません。また、若いうちに多くの雑用をこなしてください。雑用も仕事のうちです。雑用さえできない人に大きな仕事は任せられません。10年後、20年後に皆さんが幸せに生活し、社会で活躍していることを切に願います。



次世代建築技術者へ

専攻主任 山本 剛

専攻科修了おめでとうございます。建築技術者を志してから7年間。ようやく建築の専門家としてのデビューですが、どんな思いで毎日を過ごしているのでしょうか。皆さんの建築技術者としての使命は何でしょうか。インターネットが誕生してIT産業は急速に大きくなり身近に感じられるようになりました。この分野に比べると建築業界は地味で古臭く見えるかもしれません、建物の建設は崇高でチャレンジングな仕事だと思います。

人類の建設の歴史は極めて長い。古くから人間の生活基盤を支えてきたし、文化遺産も多い。最古の住居はフランスのテラ・アマタ遺跡で見つかった約40万年前に建てられた小屋だとされています。日本でも縄文時代には竪穴式と呼ばれる住居が建設されているし、世界最古の木造建築である法隆寺は1000年以上も建っています。日本初の超高層建築「霞が関ビル（地上36階建、高さ147m）」は1968年に33ヶ月の期間で建設されています。ニューヨーク市マンハッタン区に超高層ビル「エンパイア・ステート・ビルディング（地上102階建、高さ443m）」が竣工したのが1931年なので、日本の超高層ビルはアメリカよりも40年近く遅れて登場したわけですが、1891年濃尾地震等、多くの地震被害を受けてきた日本では、当時、超高層建物は不向きであるとされていました。また、関東地震の前に制定されていた市街地建築物法では、一般建物の高さは31m以下に制限されていたので、超高層ビルの建設は相当チャレンジングだったわけです。従来の耐震壁等の構造部材の剛性を上げて耐震性能を確保する剛構造では絶対に超高層ビルは無理だということで、RC造のスリット壁とS造フレームを組み合わせた柔構造を生み出して、超高層建物を実現したのです。現在、この超高層ビルを訪ねても、周りの建物の影に隠れて見つけるのがなかなか大変ですが（周囲の建物の方が高い！）、柔構造は制振構造に発展し、超高層ビル建設の考え方と技術はその後の超高層ビルへと受け継がれています。

入社して数年も経てば、10階建程度のマンション現場であれば簡単に回せるようになるでしょうが、建築の歴史の中で膨大な量の知力とエネルギーが投入され、多くの犠牲が払われて今の建築技術があることを忘れてはなりません。森林が豊富な場所では木を切り出し、植物の

育ちにくい乾燥地域では石を切り出したり土を固めたりして気候風土に合った住居を発達させた。産業革命とともに鉄、コンクリート、ガラスを用いた建物を作るようになり、コンピューターが発明されて超高層ビルを造れるようになった。何度も試行錯誤を繰り返し、取捨選択されて使える技術だけが残ってきたのです。建設業界で働く皆さんは文化継承者であるとも言えます。

これだけの優れた建設技術を持ちながら、今の日本の建築業界には課題が山積みです。耐震性能の不足、防火・耐火上の欠陥、耐久性の欠如、低い断熱性能や遮音性能など、都市には基本的な要求性能を満たしていない建物が多数あります。最近では室内空気汚染物質、環境への負荷の問題も強く指摘されていますし、労働力不足と長時間労働の解消や自然災害への備えについても考えなければなりません。

日本の高等教育機関で建築を学び、一流企業に就職した皆さん、建築の世界では間違いなくエリートです。大昔の建設技術者がピラミッドや法隆寺のような構造物をつくることが出来たのだから、現在の建築業界が抱える問題を解決できないはずはないと思います。

AINシュタインによると、問題はそれが発生したときと同じ思考レベルのままだと解決しないそうです。すでに皆さんは各種構造、建築製図、建築計画、建築環境、建築整備、建築材料、建築生産学、建築法規の基礎を学び、構造設計や建築設計など、実務に必要な多くの技術を身に付けていますが、これからも学び続け、持続可能な社会へ向けた思考法を身に付けて建築の能力を高めてください。そして次世代の建築技術者として現代の都市が抱える問題を解決し、これまで受け継がれてきた建築技術を未来へと繋いでください。皆さんの活躍を期待しています。



卒業記念

5年という間で

機械工学科5年 岩佐 塔哉



期待と希望を持った1年生。学校に慣れ楽しめるようになった2年生。初めてイベントの中核となった3年生。コロナに振り回された4年生。就活や卒業研究に勤しんだ5年生。長かったようで短かった5年間。これから、何にも変え難い5年間を共にした同級生とも離れ自分の夢に向けて別々の道を歩むことになります。切磋琢磨したテスト期間、協力しあったイベント、小さな事で日々感じた成長、面倒くさいと思う日もありながら通った高専生活もこれで終わりとなります。長かったと思う人、寂しいと思う人、人それぞれだと思いますが、みんな共通して感じることは「なんだかんだ高専でよかった」ということだと思います。

個人的なことですが、僕が高専に入っていなかったら今の将来の夢、目標が決まることもなかったと思うし陸上も始めていなかったと思います。目標が専攻以外のことであってもそれは高専であったから気づいたことなのかもしません。そんなきっかけを作ってくださった高専、先生

方には感謝しかありません。

これから幾度となく重要な選択を迫られることでしょう。それが成功しても失敗しても経験としてこれから的人生に生きてくると思います。高専に入学したのもその経験の一つです。その一つ一つの経験を大切にし、自分の経験を基にした判断であれば後悔はないと思います。失敗しても、それが笑い話になるくらい頑張ればいいだけです。まだまだ長いこれから的人生ですが、採点基準はからの私たちの人生です。悔いがないように、そして高専を卒業したことを誇れるように今後全力で活動していきたいと思います。またどこかで会えることでしょう。

最後になりましたが、5年間支えてくださったすべての方に厚く御礼申し上げます。また、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

Memories

電気情報工学科5年 中村 一貴



皆さんは「卒業」にどんなイメージを持っているだろうか?めでたい?悲しい?私は寂しいものだと思っている。今まで当たり前だった日常に終わりを告げる節目、ぽつりと胸に穴が空くような感覚。何度も味わっても慣れないものだ。

高専で過ごした5年間の記憶はいつかは薄れ、無くなってしまう。その前に、私が経験した中で忘れたくないこと、大切にしたいことを今からバックアップとして保存していきたい。

最初に思い出されるのは、「実験とレポート」だろう。2年から5年まで専門の実験を行った。実験からは実験班のメンバーと協力することの重要さを、レポートからは締め切りを必ず守ること、報告する相手に伝わるように書くことを教えてもらった。レポートは3年のときが一番つらかったと思う。しかし、その経験のおかげでレポートを書くスキルは確実に向上了。私個人の意見としては、来年度からは3年生からWordなどのソフトを使ったレポートにしてあげて欲しい。Excelとかに触れていた方が学生にとって良いと思う。

次に思い出されるのは、「5年の体育大会の演舞」だ。

私は今年初めて応援団に加入し、太鼓を担当した。皆と練習した1か月間はとても楽しかった。今年のE科の演舞は、今まで私が見てきた中で一番きれいだった。かけがえのない時間をありがとう。

第三に思い出されるのは、「5年のテーブルマナー研修」だ。5年生全員でシーガイアに行って、フルコースのフランス料理を食べた。食べた料理の全てがおいしかった。そのままシーガイアに泊まってみんなと温泉に入ったり、夜遅くまで遊んだりしたのはとても良い思い出だ。テーブルマナー研修が行われたのは担任の濱田先生のおかげである。コロナで研修旅行が無くなってしまった私たち5Eのために用意して頂いた。本当にありがとうございます。

字数制限でもう書き残すことができないのがとても悔しい。

終わりに家族やクラスメート、お世話になった先生方、今まで出会ってきた人たちに感謝を。本当にありがとうございました!

卒業記念

「俺らはチーム」

建築学科5年 緒方 啓太



今回、『学園だより』を執筆されている他の著者は素晴らしい誠実な言葉を書き連ねていると思うので、私は少し息抜きになるようポップに高専5年間を、振り返りたいと思います。

高専生活5年間で多くの人に出会い、多くの人と関わり合いながら、私は成長してきました。

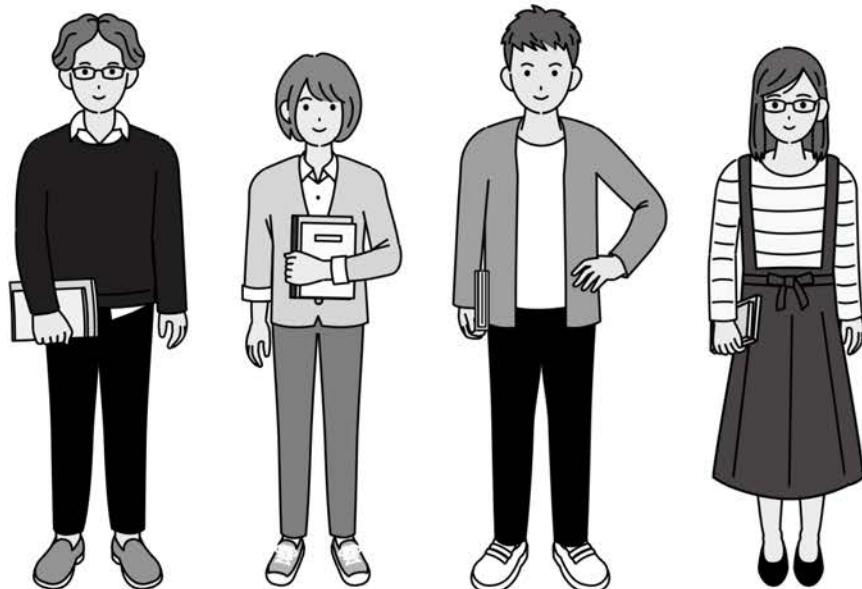
1年時には、友人がバス利用でのスケート中に前歯を折った事から、何事においても耐久性や忍耐力は大事であると学ぶ事ができました。2年時には小学生時代からの旧友2人が訳あって後輩になってしまい、その悲しみから現代を生きる事の難しさを知りました。3年時にはクラス全体で七夕まつりの風鈴イベントを成功させたり、文化祭にて副局長を経験したりと挑戦する事が多い年であり、自身の無力を痛感し努力をする事の重要性を感じました。4年時にはCOVID-19の影響で学校には3ヶ月程度しか行く事が出来ませんでした。学校大好きの私からすると是が非でも学校へ行きたかったため、COVID-19は私の青春を奪った宿敵です。ここで余談になるのですが、COVID-19の『19』は当時ちょうど19歳で

あつた私たちをよりもっと強い人間にしようと神様からの課題であったと私は考えるようになっています。私は学校が無い期間、友人とバーベキューをしたり、山登りにいき頂上でうまい飯を食べたり、キャンプをして夜遅くまで話し尽くしたり、自然と触れ合いながら友人と共に楽しい時間を過ごし宮崎を存分に楽しむ事ができました。様々な経験から得られるものは、多くありました。5年時にはYouTubeへ動画を投稿したり、咄嗟の思いつきなどで旅行に行ったり友人を毎日たたき起こしたりと日々を楽しんでいました。

友人と過ごした楽しい時間はいつまでも体に刻み込まれ、私にとっては大きな財産になりました。

そして私を5年間で大きく成長させてくれた家族、先生、先輩や後輩、そして大好きな友達は「俺」にとって、1つのチームでありかけがえのない存在です。俺らはチームであったとそう思います。

皆がいてくれて今の私はいます。本当に感謝しています。ありがとう。



修了記念

専攻科修了にあたって

機械電気工学専攻2年 福島 聖

6年間の小学校生活よりも長い7年間をこの都城高専で過ごし、いよいよ卒業の時を迎えることになりました。特に本科4年から専攻科2年までの4年間は、様々なことに挑戦し、成長できた非常に充実した期間でした。

私は中学時代にオープンキャンパスや高専祭で都城高専を訪れ、ものづくりの楽しさに惹かれて機械工学科に入りました。手先が不器用で中学時代は技術の授業もそこまで得意でなかったため、はじめは実習で工作機械を使った加工がうまくできず、何度か授業時間外まで残って作業したこともありました。しかし、技術職員の先生方が丁寧に教えてくださり、今では研究で使用する実験装置を自ら設計、製作できるようになりました。

本科時代に最も印象に残っているのは、4年生の夏季休業中にあったインターンシップです。私は2社のインターンシップに参加させていただき、授業では学ぶことのできない実際の業務の流れや作業工程の管理、改善を行う上で大事なことを体感しました。特に東京で2週間のインターンシップに参加した際は、北海道や中国四国地方の高専生と交流することができ、非常に貴重な体験となりました。

本科での経験から、もっと多くの企業や大学を知って進

路選択を行いたいと思い、専攻科へ入学しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、授業開始が遅れることや遠隔授業など、想定していない困難な出来事が多々ありました。家にいる時間が増えたことによって1人でじっくり考えることができ、有意義な時間にできたと思います。遠隔授業の影響で、特に専攻科特別研究において実験装置の製作ができず、思うように研究が進まない中、指導教員の白岩先生が親身になってご指導していただき、試行錯誤を重ねながら可能な範囲で充実した研究を行うことができ、その結果、今年度オンラインで開催された16th-ISEMの高専生ポスター発表では、「The Best Research Prize」を受賞することができました。この受賞を励みに、大学院進学後も研究に勤しみたいと考えております。

最後に、仕事で忙しいにもかかわらず7年間お弁当を作ってくれた母、都城高専の卒業生としてアドバイスをくれた父、テスト期間や長期休暇の時に昼食を作ってくれ、帰りを温かく迎えてくれた祖母に、この場を借りてお礼申し上げます。家族の支えがあって7年間無遅刻無欠席で充実した学生生活を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

修了にあたって

機械電気工学専攻2年 豊丸 優河

都城高専に入学してから7年が経ちました。本科に入学した当時は、5年の高専生活ですら非常に長いと感じていたため、本科を卒業した後、専攻科へと進学し、さらに2年間勉学に励むことになるとは思ってもいませんでした。この7年間を振り返ると、多くの科目を学修することを始めとして、研究や就職活動等、多忙な高専生活を送ってきたため、思っていたよりもずっと短い期間であったと感じています。

専攻科への進学が控えている頃、新型コロナウイルスの影響によって入学式も省略され、授業の開始も遅れてしまったために、専攻科に進学したという実感がないまま高専生活を送っていた時期がありました。しかし、その中でも都城高専の教職員の方々が迅速に対応して下さったおかげで、大きな遅れもなく、遠隔授業という新しい形式で学習を進めることができました。慣れない形式の授業であったために、戸惑いもあり、漠然とした不安を抱えておりましたが、先生方か

らの手厚いサポートのおかげで、無事に学習を進めることができました。また、私の専攻科における研究は本科から引き継いだため、合計3年という非常に長い間、同じ分野の研究に専念することができました。この3年間で、学会への参加を始めとした非常に多くの経験を積むことで研究を進めるためのノウハウを獲得し、成長したことを実感することができました。

今後は社会人として新たな生活を送っていくことになります。新しい環境に身を投じるにあたっては、数多くの困難を乗り越える必要があると思いますが、都城高専で得た経験を礎として、技術者として社会に貢献できるよう、更なる研鑽を積みたいと考えております。

最後になりますが、今まで丁寧にご指導いただいた先生方、高専生活をともに過ごした友人、そして常に支えとなつた家族に心から感謝申し上げます。

修了記念

専攻科修了に寄せて

物質工学専攻 2年 安田 優花



専攻科のスタートは新型コロナウイルスによる外出自粛の中、2か月遅れの遠隔授業という異例づくめでした。最初は、自由に時間が使えることへの憧れを抱いていましたが、実際始まってみると課題の締め切りに追われる毎日かつ遠隔授業のため頼る人もいない孤独感を大いに味わい、初めて「進路を間違えたのではないか」という思いが湧きました。しかし、遠隔授業が明け、先生方や専攻科に進学した友人たちと久々に会話はじめると、その気持ちも次第に落ち着いていきました。このことより、何事も人の繋がりに支えられてこそ人は生きていけるのだと思いました。その後もここまで幾度かの遠隔授業や特別研究の発表、大学院受験や学会発表など様々な苦しい時期を迎えましたが、共に戦う友人たちと励まし合いながら乗り越え、この修了という時期を迎えることができました。本科入学時から一緒にいた7年間の絆に感謝したいと思います。

さて、先ほど述べました「進路を間違えたのか」という思いに対してですが、現在もそう思っているわけ

ではありません。専攻科の2年間を俯瞰してみると、自分で研究の計画を立て実験し報告する一連の流れや、誰に対しても分かりやすい資料を作成する技術および私たちならではのオンラインで作業する技術を身に付けただけでなく、「やらされる」ではなく「やる」研究こそが一番効率的で、何事も楽しんで取り組むことが良い結果を生むといった様々な考え方を深められた自分になったことに気が付きました。私は、専攻科期間はこのような成長のために用意され、かつ私の人生に必要であったと今では思っています。悩んでいた頃の自分に「間違ってないよ」と声をかけてあげたいです。

最後になりましたが、7年間という長い間私たちを見守ってくださった先生方、一人親ながら娘の進学を受け入れてくれた母、その他支えて下さったすべての方々に心より感謝申し上げたいと思います。たくさんの「ありがとう」の気持ちを忘れずに、これからも前進していきたいと思います。

専攻科修了にあたって

建築学専攻 2年 立元 廉



本科の5年間と専攻科の2年間を合わせて7年間の高専生活が終わりを迎えてきました。7年間は非常に長い時間に感じますが、振り返ってみると短い時間だったように感じます。

入学当初は専攻科という存在も知らなかったため、進学する予定はなく、就職したいと考えていました。しかし、本科の時、このまま就職することに不安を感じていたと同時に建築のことを学んでいく中で、まだまだ自分は建築のことを学ぶ必要があるのではないかという思いが強くなっていました。この思いを抱えたまま社会に出てしまえば、きっと後悔すると思い、専攻科に進学しました。専攻科に進学した後は、新型コロナウイルスの影響で遠隔授業になり、通常通りに授業を受けられなくなりましたが、自ら考える時間が増え、ゆとりを持って学習に取り組みることができたことで、2級建築士に合格することができました。また、研究室の活動の中で、空き店舗のリノベーションや園

庭整備、地域の活性化を狙いとしたイベントなど様々なことを経験することができました。特に地域の活性化を狙いとしたイベントでは、イベントの企画・計画に携わり、私自身が施工した廃倉庫を活用したカフェが実際に運営され、多くの地域の方が利用してくれた光景は専攻科の学生生活の中で、一番の思い出になりました。

私はこれから社会人として、新たな一步を踏み出します。今後はこの高専で学んだことを糧に技術を磨くことのみならず、自ら問題を見つけ、周囲とのコミュニケーションを取りながら社会に貢献できる技術者を目指して頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、今までご指導いただいた先生方、共に学生生活を過ごし、切磋琢磨した友人、常に支えてくれた家族に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

十代最後の祭り

文化祭実行委員長 中元 景介

みなさんこんにちは。第26回文化祭実行委員長を務めさせていただきました中元景介です。この場をお借りして改めてこの度の文化祭にご協力いただいた保護者の皆さま、企業の方々、先生方、学生のみなさん文化祭実行委員を代表して厚くお礼申し上げます。そして来年度の高専祭も引き続きご協力のほどよろしくお願ひいたします。

さて、みなさん私の誕生日をご存じでしょうか？そうです、かの有名な和田アキ子と同じ4月10日です。つまりこの春休み期間が終わるとほぼ同時に私は20歳となってしまいます。本当にもう老けたくありません。これを読んでいる保護者様の中には「こいつは何を言っているんだ」とお思いの方もいらっしゃると思いますが、すし屋に行きガリを食べるようになり、建築科棟で静電気をよく浴びるようになり、一人ラーメンを食べに行くようになった私のことを踏まえると少しは大人になったのかなと思います。

しかし、大人になったとは言ったものの文化祭では仲間たちに迷惑をかけてばかりでした。まず昨年度の高専祭が中止になってしまい、運営経験が全くない状態で実行委員長となったことで段取りがうまく決められず、文化祭の各担当責任者の質問にもうまく答えられない状況でした。また、コロナウィルスにより今まで当たり前にできていたイベントなどに感染対策の問題上、STOPがかかってしまうなど八方塞がりのなか、十代最後のこの一年をかけ、がむしゃらに取り組みました。良い思い出ばかりじゃないですが、本当に濃い一年間になりました。19歳の周りのみなは新入社員として働いていたり、学校の一年生として学生生活を送っていたりとなかなか大きい集団の長として活動するという機会がないことを考えると、この都城高専で私はとても貴重な経験をさせてもらえたなと今実感しています。最後になりますが来年度の高専祭は運営を経験している人材、そして参考資料が豊富にありますので、きっと今年度よりはるかに盛り上がると思います。私も新たな立場として応援し、そして嫉妬させられていることを期待します。



機械工学科

『エアーパーテーション』

田中 鼎

皆さんはよく飲食店などに置いてあるプラスチック製の仕切り板、通称「パーテーション」を邪魔だと思ったことがあるでしょうか？このご時世、飛沫を防ぐためだとはいえ、不快に思った人も少なくないと思います。私たち4年機械工学科は「もっと皆さんに食事を楽しんで欲しい」そんな思いで、ある革命的な製品を開発しました！その名も「エアーパーテーション」です。名前の由来？そんなの名前の通りです。パーテーションのプラスチック板の部分を「空気」に変えたのです！ここで「それってただプラスチック板無くしただけじゃん、飛沫防げないでしょ」なんて思った皆さん、落ち着いてください。今からこの装置の仕組みについて説明します。

まず、改めて前提としてこの装置は飛沫を防ぐことを大前提としてつくれています。そのため、ただパーテーションのプラスチック板の部分を取り除いても意味がありませんよね？そこで我々は「風の壁」を使って飛沫を防ごうと考えました。じゃあ風をどう出

すか？そう考えたときに我々は「シロッコファン」を見つけました。このファンは扇風機などに用いられる通常のファンに比べて風の壁をつくるのに適しているのです。文化祭当日では、屋台と協力して、クレープ屋の横にある休憩スペースに完成したエアーパーテーションを配置しました。この時もしっかりと動作しており、今までの努力が報われた気持ちになり、非常に嬉しかったです。

正直なところ、この装置をつくる際に全ての学生に平等に作業をしてもらうということは非常に難しく一部の学生に仕事を任せきりなところや、逆に一部の学生にあまり作業に関わらせられなかったりといったような後悔や反省点もありました。しかし、この研究発表を何事もなく行えたのも4Mの皆や協力してくれた先生方、この全員が本気で取り組んでくれたからこそだと私は思っています。本当に皆さんありがとうございました！

電気情報工学科 『ラクラク体温測定&保存』

伊地知 陽人

私たち4年電気情報工学科は、「ラクラク体温測定&保存」をテーマに現在学内で使用されている表面温度感知装置、表面温度を測るだけでなく、体温を日にちに紐づけて保存するシステムの研究・制作を行いました。そもそもなぜ、体温を日にちに紐づけて保存するシステムを制作しようと思ったのか。現在のシステムでは、ただ表面温度を測るだけで、体温を日にちごとに保存するためには別で紙に記入するなど手間をかけなければなりません。そこで、その手間もプログラムなどを駆使して装置側で済ましてしまえば余計な手間がかからず、より学校生活を快適にできるのではないかと考え、今回のシステムの制作が決まりました。これを制作するにあたって、まず体温を装置からコンピュータへ送る方法を探しました。しかし、体温を装置からコンピュータへ送る仕組みを作るには時間があまりにも足りないことが分かり断念。手入力で保存することになりました。

体温を装置からコンピュータへ送る仕組みはできませんでしたが、データをコンピュータに日付と紐づけて保

存するシステムは色々な方法を模索し、試しました。クラスメート全員がプログラミングに詳しいわけではなく、こうしたシステム自体つくるのは初めてだったので、時間がかかり、グダグダになった部分もありましたが、制作班のまとめ役となってくれた今川君や制作の主導力となってくれた青木君の尽力もあり発表できるレベルのものが出来上りました。

今回の私たちの研究発表は、私自身こういったプロジェクトの中心になって活動する経験があまりないものあって、周りに非常に苦労を掛けたと思いますが、立案から進行まではとてもいい経験になりました。周りの人の協力がなければ決して成し遂げることはできなかったと思います。

最後に、研究から発表までとことん協力してくれた今川君、青木君、そして4Eの皆さん、研究の相談に乗ってくださった担任の小森先生に感謝の言葉を述べて締めたいと思います。本当にありがとうございました。

物質工学科 『コロナ対策って意味あるの?』

榮福理紗、竹島莉咲

皆さんは、新型コロナウイルスに対して疑問を抱いたことはありますか？例えば、身の回りにはどのくらいの菌がいるのか、本当に菌はアルコール消毒で死んでいるのか、どのような経緯で新型コロナウイルスに感染するのか、等々…。私たちは、それらの疑問を実際に検証してみました。

まず、一つ目の疑問として挙げたのは、いつも行っている手指や机の消毒で本当に滅菌できているのかということです。この疑問に対して、私たちは、何もしていない手、机、ドアノブの菌を採取し、寒天培地で菌の数を可視化してみました。そして、消毒後の手、机、ドアノブの菌を採取し、何もしていない状態からどのくらい菌が減ったのかを調べました。この実験から、何もしていない手やドアノブからはたくさんの菌が見られ、消毒した手やドアノブからは少量の菌のみ見られました。

二つ目の疑問は、消毒液のタイプ別による効果の違いです。この実験では、ウェットティッシュ、学校の消毒液、自作の次亜塩素酸で机とドアノブを消毒し、菌の数の違いを確認しました。結果は、どちらも除菌効果があ

り、違いはそれほど見られませんでした。また、ノンアルコールのウェットティッシュでも除菌効果が少し見られました。

三つの疑問は、消毒液をミスト化すると効果があるのかということです。この実験では、小さな空間で加湿器のようなものに次亜塩素酸ナトリウムを設置して、菌の数が減るのかを調べました。しかし、菌の数は減らなかったので、消毒液のミスト化の実現は難しいということが分かりました。

これらの結果から私たちが言えることは、消毒作業をしなければ、ドアノブや机などに目に見えない菌が増殖してしまうということです。従って、これからも自分自身や周りの大切な人たちが毎日健康に過ごせられるように、コロナ対策を継続していきましょう！

最後に、研究発表にご協力頂いた先生方、4Cの皆さんのおかげで、当初の予定より遙かに素晴らしい研究発表が出来上りました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました！

建築学科

『建築の心得』

日高 龍伸

私たち4年建築学科が目指した建築物は本来の目的を持ちつつそれをいかに快適に実行するか、そういう建築物を建てました。

具体的に何を作ったかというと、コロナ対策をいかに快適なものにするかというものです。コロナ対策をするために、壁を作ったり、消毒を勧めたりすることは簡単ですが、それでは人がストレスを感じてしまいます。そこでそれをなくすために、私たちは華麗なカーテンを使い自然と人を離すそのような建築物を作りました。

まず、どのようにカーテンで仕切るの？なんていう疑問がわいてくると思います。簡単です。カーテンを通路方向に平行に間隔を狭めて並べ、人がその間を通過することで自然と障壁のようなものを作りました。次にどのように快適に過ごすのかというと、カーテンを色

とりどりにし、風によってひらひらさせることによって、きれいな空間と、インスタ映えを狙いました。自慢じゃないですが文化祭当日はたくさんのインスタのアカウントでこのカーテンの建築物の投稿やストーリーを見ました。まあ自慢ではないですが、、、

そんなことはさておき、この研究発表で得られた成果は、快適に目的を実行することによって、そこに自然と人は集まり、楽しい空間へと進化していくのです。それを達成するために私たち建築学科の学生たちは毎日建築のことを考え、地獄の製図をし、模型を作っています。そんな建築学科に入りたい方はぜひ都城高専の建築学科にお越しください。

特集Ⅱ こちら在校生



★機械工学科3年★ 『This is 3M』

私たち3年機械工学科は、男子35名、女子2名の計37名のクラスです。私たちのクラスは機械科にしてはそんなにはっちゃけた人はおらず、比較的穏やかで平和なクラスです。

1年生の頃はクラスメイト同士探り探りの状態が長く続いている、なかなか「まとまりのある」とは言い難いクラスでした。2年生では、新型コロナウイルスの影響で前期は遠隔授業となり、一度も登校することができませんでした。後期は対面授業が再開されたものの、高専祭などのイベントが中止になってしまい、クラス一丸となる場面はほとんどありませんでした。3年生に進級すると、やっと普段通りの生活に戻り、文化祭の学科開放ではダンボールクラフトなどの製作・準備をクラス全員で協力することができました。また、例年なら2泊3日の工場見学が日帰りで県内の工場見学に変更されましたが、普段は見られないような機械が見れたり、実際に工場で働いている方々のお話が聞けたりと、とても貴重な経験をすることができました。

成績については、あまり良いとは言えませんが悪いと

学級委員長 森 拓斗

も言えない状態です。専門科目も増えてきて苦戦する場面もありますが、3年生から4年生に上がる時が一番大変だと言われているので、クラスみんなで助け合いながら37人全員で進級できるように頑張りたいと思います。

4年生からは卒業後の進路について真剣に向き合わなければなりません。専攻科や大学に進学するのか、企業に就職するのかクラス内で話し合うことも増えてきた気がします。みんながそれぞれの夢に向かって走り始め、いつかそれが達成できる日が来るよう残りの2年間を大切にし、切磋琢磨していきたいです。



★電気情報工学科3年★ 『1年間を振り返って』

河野 太翼

私たち3年電気情報工学科（3E）は、男子39名女子7名、計46名です。みんなとも仲が良く、個性豊かなクラスです。運動部で活動している人、文化部、同好会で活動している人など、様々なことに挑戦している人が多い、そんなクラスだと思っています。

今年度は新型コロナの影響をあまり受けずに、無事に二大イベントである体育競技会と文化祭が開催され、参加することができました。この二大イベントでは、その活力を生かして全力でみんなが取り組み、すばらしい結果を残すことができました。学科開放では、作品として「イライラ棒」を4台仕上げました。4グループ4様の作品を作製し完成させました。

また授業では、3年生から専門科目が増えて、難易度が高くなって、理解するのが大変です。その時は、学生同士で協力し合い、教え合ったりして解決しています。これは3Eのすばらしい所の1つです。そして、実験も、授業と同様に、2年生の時と比べて、難易度が高く、またレポートを書く枚数が大幅に増加しました。それでも、実験班全員で、協力し、教え合い、理解を深め

解決に至ることができました。

そして、4年生からは卒業後の進路について考えないといけません。そのため、インターンシップや企業説明会などに積極的に参加して進路を決めるときの材料にしたいです。

最後に、これからもクラスみんなで協力し様々なトラブルを乗り越え、卒業までの素晴らしい、楽しい学校生活を送っていきたいと思います。クラスのみんな、学校の教職員の方々、親に感謝します。これからもよろしくお願ひいたします。



体育競技会の時「みんなでピース」





★物質工学科3年★ 『今まで振り返って』

学級委員長 東 真衣

私たち3年物質工学科は、男子20名、女子25名の計45名のみんな仲良く元気なクラスです。今年度から新たに留学生が二人加わり去年とはまた少し違った新鮮な毎日を過ごしています。

今年は去年と違い行事を無事行うことができました。特に印象に残っているのは文化祭です。文化祭の学科開放で私たちのクラスはルミノール反応とダイラタンシー現象について発表しました。必要なものの調達や反応するのかの確認、薬品の調節、反応の説明、脚本などすべて学生で行いました。特活や放課後の時間を削りながら作った発表は自分たちが見てもとてもいいものができました。当日発表していく中で先生方や見に来てくれた学生が楽しそうな顔をして帰っていくのを見ると頑張った甲斐があったなとうれしくなりました。その努力の甲斐あって学科開放で3年物質工学科が優勝することができました。これは皆の頑張りはもちろんですが、薬品を使うにあたって実験の助言や実験室の開閉、薬品の管理などをしてくださった先生方のおかげでもあります。とて

も感謝しています。

この団結力を生かしてこれからも勉強面や行事などで一致団結してお互い助け合いながら頑張っていきたいです。



★建築学科3年★

『建ちくしか勝たん』

杉尾 京都絵

「建ちくしか勝たん」と背中に頼りない文字で刻まれたTシャツを身に付け、体育競技会で熱く盛り上がった私達は3年建築学科です。夏服のシャツの下からも透けて見えるそのTシャツを着たクラスメイトを見て、皆3Aの事が好きだと口元が緩みます。うちのクラスは1年生の試験で平均点が60点を下回るという絶望的なスタートを切りました。建築の難しさに落胆し、一級建築士は夢のまた夢、果たして将来建築系の職業が手に着くのか、1年生にして不安を覚えたほどです。しかし、今では多くのテストでクラス平均が学年トップを取る事が多く、自分のクラスをここまで褒めるのも恥ずかしいですが、歴代の先輩方に引けを取らない程、優秀なクラスです。まあポテンシャルが高いのでしょう。将来、このクラスから何十名と天才建築家が生まれる事を想像して、就職したら毎日どんな美味しい物を食べようか悩んでしまいます。

余談はさておき、うちのクラスは体育競技会では競技に参加しているクラスメイトを自然と目で追い声を張つ

て応援してしまう、クラスマッチでは時間が空くと互いの競技を見学しに行く、学生会選挙に立候補している人がいれば応援し手伝い、演説では多少スペッてもとにかく笑い盛り上げる、純粋に良いクラスなんです。新型コロナウィルスの流行によって昨年は学校生活もままならず、今年も前期に少しの間、対面授業が困難な時期がありました。普通に学校生活を送り行事を楽しむ事の出来る環境ではありません。これからもきっと以前と同じように過ごす事は難しいでしょう。皆それぞれの悩みがありストレスを抱えていると思いますが、それでも手を抜かず勉強に部活に課外活動に励むうちのクラスは、高専生活の折り返しとも言える3年生の今、入学当初より皆良い目をしています。

単位を落としそう、宿題が大変、勉強が難しい、とブーブー言う事もありますが、何だかんだで学校生活を楽しんでいるツンデレばかりです。楽しいぞ建築！！



特集III 拝啓後輩殿（OB・OG通信）

卒業生・修了生のみなさんへ

機械工学科OB 児玉 誠

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・修了おめでとうございます。

私は、機械工学科を1986年に卒業し、現在、深山会延岡支部長を務めています。高専卒業後に地元宮崎県延岡市の化学メーカーに勤め、工場内の発電プラント、化学プラントの設備管理業務を一貫して行ってきました。気付いたら入社36年目となり、あと数年で定年退職を迎える年齢になってしまいました。こんな私ですが私の経験が少しでもみなさんのお役に立てればと思い、今回メッセージを送らせて頂きます。

みなさんにおかれましては、一昨年前より継続している新型コロナウイルスの感染拡大の影響で生活や学業において大変な不自由と制限を受ける中、ご苦労されてご卒業・修了をむかえられたことと存じます。同様に私たち会社員もコロナ禍で大きな制限を受けましたが、その反面、仕事上大きく変化することが出来ました。今まで当然であった対面での仕事がICTの活用によりリモート化し場所を選ばない仕事となり効率化が進みました。コロナが沈静化した後は対面に戻る仕事もあると思いますが、リモート化は新たなスタンダードとして定着し今後DX（デジタルトランスフォーメーション）と相まって進化して行くでしょう。この状況において学生時代に今回の環境変化を体験したみなさんはその先駆者として活躍できると期待しています。

また、近年各企業は地球温暖化への対応を求められています。私の勤める会社でも「2050年にカーボン・ニュートラルを目指す」とし、2030年のGHG（温室効果ガス）排出量についても「30%以上削減を目指す（2013年度対比）」と発表しました。これから企業は環境経営無しでは生き残っていけません。みなさんが働く企業でも環境対策投資を積極的に進めて行くことになると思います。それは大きな課題でもありますが、その中に新たな技術やチャンスが生まれることは確かですので、みなさんの活躍の場になるのではと思っています。

この様に、今社会は大きな変革の時に差し掛かっていますが、仕事をする上で変わらないこともあります。それはコミュニケーションです。みなさんも学生時代友人に悩みを相談したり、先輩にアドバイスをもらったりして苦難を乗り切ってきたと思います。社会人になっても同じで、如何に自分を信用してもらい仲間を作っていくかが大事で、結果として仕事の成果も変わってきます。また、自分がつらい時期でも助けてもらうことが出来ます。そのためには「基本となる挨拶をすること」「誰に対しても誠実であること」「報・連・相（報告・連絡・相談）をきちんとすること」が重要です。私の職場にも今年入社の新入社員がいるのですが、その子たちがいろいろ相談に来てくれるとうれしいものです。初めて社会人として仕事をする不安もあると思いますが、まずはこの3つの事を実践してもらえば何とかなると思いますよ。

最後に、深山会延岡支部では毎年11月に同窓会を開催しています。この2年間はコロナの影響で開催出来ていませんが、コロナ禍が落ち着いたら再開したいと思っています。様々な業種で働いている都城高専のOB・OGの皆さんと話が出来ますので延岡市の近くで仕事をされる方は是非参加下さい。お待ちしております。

申し込みは左記HPより。 <https://nobeoka-miyamakai.net/>



特集III 拝啓後輩殿（OB・OG通信）

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます 電気工学科OB 寺田 洋一

晴れて、卒業を迎えた後輩各位、おめでとうございます。

私は入学7期、電気工学科の卒業生で、鹿児島支部長の寺田洋一です。

今回、「学園だより」への寄稿を依頼されました。そのような柄ではありませんが、駄文を寄せさせていただきます。

学生生活謳歌されましたが、悔いのない青春時代だったことでしょう。私もクラブ（野球部）活動に精出し、寮生活を楽しみ、牟田町を楽しみ、第二の故郷「都城」に完全に惚れ込んだ生活を送りました。まさに良き時代を生きたなと思っております。ここまでだと学生の本分の学業は？完全落ちこぼれ、年度末は進級判定会議にひたすら気をもんだ6年間の学生生活でした。お察しのとおり、3年で留年、故に6年です。

少し学生時代の紹介をさせていただきましたが、社会に入り6年間、電気主任技術者の仕事を経て、鹿児島市議会議員から現在、鹿児島県議会議員を務めさせていただいております。

卒業してから46年の月日が流れましたが、これからの方々にたいそうなエールは送れる立場ではありませんが是非とも胸の片隅に置いていただきたいことがあります。

1、人を信じること

2、己を信じること



校歌の一節、暁雲映ゆる霧島の峰々遠く仰ぎつつ青春時代を謳歌した学び舎、そして育んでくれた都城の地、そして私のような者にも愛をもって接して頂いた恩師、事務、技官、かけがいのない同窓諸君に衷心より感謝しつつ、わが都城高専の更なる発展を祈念して結びとします。



特集IV こちら後援会

自由で高度な環境の中での生活を見守ることへの

都城南支部 森山 数也

それは12月の半ば、今にして思えばかなり時期が迫っていた中での1本の電話でした。前任の理事の方から連絡があり、是非引き継いでほしいとの事でお引き受けしましたが、例のアレで、次の代議員の方々をお誘いするのも、会ったことない方々にお願いしないといけない状態でしたし(いきなり知らない自分から連絡がきて、代議員を引き受けて頂いたなーと密かに感謝しております)、いまはライン等SNSがあるので連絡示達自体は結構しやすくなっていますが、そもそも支部総会もする事ができず、中々支部会員の皆様とお会いすることが出来ない日々が続いておりました。通常であれば、その年の支部総会で承認をもらって活動開始、そして新年度の4月から理事会等に出席しながら、次年度の役員さんをお願いしていき9月に支部総会の流れなのですが、去年からお会いする機会がなかったので、先日開催された役員会で直接お会いして対話する事は、大事な事だと痛感した1年でもありました。那須会長をはじめ、同じ理事をされている方々にお会いして、広域から参加している方々との会議は、沢山の刺激をもらって、自分の至らなさを痛感した会でもありました。これからは第7波がくる事もなく、普段通りの事業が開催されることを願っています。体育競技会と文化祭はせめて見にいきたいもんですねー。あっもちろん支部総会は、来年度は必ず開催したいと、絶対に思っております!

さて、子どもが現在4年生で、都城高専との関りは4年になるのですが、うん何年前は、私も都城高専に行けるのではという時期がありました、、あっただけですけど、過去の問題集をやった時に、レベルの違いを様々と感じ即普通科に転身したのを思い出しました。そんな高度な知識を習得していく我が子を見てきていますが、受験する時はレベルが高すぎるのではないかなと思って、自分の経験も踏まえて再考することも伝えましたが、どうしてもいきたい意思があつてお世話になっている現状です。1~2年生時は基礎学力の分野が多かったのでなんとか進級出来ましたが、3年生になると専門分野も入ってき

て、よくついていっているなと密かに感心した時もありました。そんな心配な日々が続いているんですけど、いつもの事ながら試験前限定で、勉強しだすうちの子ども。チラッと解いている問題を見てみると、書いてある内容が高度すぎて正直全然分からぬ問題ばかりでした。苦労しながら(ほぼ友達に聞いていましたが)解いていくのを見るたびに、都城高専に入れて良かったと思います。また高専は他の高校と比べて比較的の自由な所があり(まるで大学生のような)、知識を学ぶのには最高の環境なのではないかと思っています。部活の方でも中学の時よりは熱量は減りましたが、高専大会という独自の大会もあり(高校生の大会にも参加しますが)、全国に高専があるので様々な所に行く機会があって、また違う環境での気づき等があったのではないかと思っています。成績の方は相変わらずですが、内面は相当変わってきていて、自分の主張も言うようになり、知識は子どもの方が絶対上なので、たじろぐ場面も出てきているので、親の威厳を保つのが大変ですー。もうすでにはないかもしれません。

コロナ禍でなければ今年はインターに行ける予定だったのですが、緊急事態宣言中の最中ということもありリモート形式に変わってしまって、貴重な経験を逃してしまいましたが、都城では中々体験出来ないかもしれないリモートワークになれる機会が出来たのは良かったのではないかと思っております。あとは4年前期で取りこぼした分を、後期で挽回してなんとか5年に進級できて、最後の高専での1年を満喫して、取得した高レベルの知識と技術をもって、これから訪れる苦難や困難、そして達成感を感じられる社会へ飛び出していってもらいたいと思っております。私も2年任期の理事として、あと1年ですが、229名いる大所帯の南支部を、代議員の皆様とともに少しでも盛り上げて子ども達へのバックアップ体制をより太くし、保護者の方々の情報共有も活発に出来ればと思っております。

随所に主となれば、立つところみな真なり

西諸県支部 黒松 裕貴

次男が高校進学をするにあたり、都城高専を志望したいと相談を受け、自分の中学時代の記憶が蘇りました。都城高専の建築に進んだ剣道部の先輩を地元のヒーローとして尊敬していました。その頃の都城高専に対する私のイメージは、男子生徒だけで、なぜか部活はラグビー部という、少々、古い形容詞ではあります、【パンカラ】なものでした。夏のオープンキャンパスに次男と訪問したときは、そのイメージが一変しました。自主自立を重んじ、何事も自分次第、自由な校風に親子して大変惹かれて、私自身も都城高専を受験するという選択肢もあったよなという後悔にも似た気持ちになりました。

晴れて、次男が都城高専に合格し、入学式を令和2年4月に迎えたときには、世界中で新型コロナウイルス感染症の影響が強く出始め、入寮したての次男は帰宅を余儀なくされました。それから、リモートによる学習が始まるわけですが、想像していたものとは全く違う生活に戸惑い、時には怠惰に陥る自己管理を心配しましたが、なんとかこれまで過ごすことが出来ています。入学前から次男

には軽音などの文化系に所属したいという希望があったようですが、何故かしら、ラグビー部に所属しました。人数が足りずに、練習には課題があるようですが、そこで一生懸命に先生や先輩、同級生、後輩と取り組んでほしいです。普通の高校よりも、専門的で難しい教科があり、本人は悪戦苦闘しています。相撲では、自分より、強い相手と練習しないと伸びないとと言われています。かけがえのないこの時期に、思う存分に悪戦苦闘して欲しいです。

私は、これまでの様々な苦い経験から、【主体的】であるかどうかを仕事や生活の中で重んじてきました。環境、条件、境遇をそのままに受け入れ、自分にできること、手をつけられることは何かをしっかりと見据えて、一步踏み出し、その瞬間その瞬間を誠心誠意取り組む。それらが重なり、大きな成果になることを強く信じています。

特集IV こちら後援会

笑顔咲く愛情たっぷりカレーうどん

都城南支部 吉田 さつき

私が初めて高専祭に参加した日は良い意味で驚きの連続でした。制服姿の学生さんに交じり、おしゃれな私服に茶髪の先輩方のなんと眩しい事。学科開放では実験教室やリモコンで機械を操作したり、叫び声の聞こえ続ける手の込んだお化け屋敷に、外では多くの人々が列を作り賑わう屋台。屋外ステージの上ではクイズ、ものまね、カラオケ大会などで盛り上がり、学内を女装やお化けの姿でウロウロする人たち、他校の学生、地域の方々、子供さん達がたくさん集まり、大学のキャンパスかと思うほど、活気溢れる高専祭。見るものすべてが新鮮で「楽しい！」と保護者の私も歳を忘れてしまうぐらい高専祭は最高でした。

しかし令和2年、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、学生さん達の生活は一変しました。全学年、遠隔授業を余儀なくされ、外出も許されず、家の中で過ごす毎日。実験もできないが大丈夫だろうか？このままで単位は取得できるのか？テストは受けられるのか？・・・親子共々不安な日々が続きました。多くの大会やイベントも中止、延期となりました。コロナがなければ部活に打ち込んでいただろう。大会に向けて頑張ってきただろう。友達と自由に遊びに行っていただろう。やり場のない怒りをどこにぶつける事も発散する事もできない状況が続きました。

そんな中、令和2年度は無観客で辛うじて体育競技会が行われ、学科ごとに放課後や休日、練習に練習を重ね、息の合った華麗な動きを魅せる応援団の演舞はどの科も本当に素晴らしい、後輩たちへと引き継がれました。しかし、みんなの楽しみにしていた高専祭は中止となりました。

今年度、学生さん達は高専祭を開催したい！という熱い思いの中、感染症対策を行ながら、お化け屋敷は密にならないよう脱出ゲームに、屋台では販売物を個包装の物に徹底したりと工夫を重ねることで、何とか無事に開催されました。このような状況下でいろいろな苦労、会議等を重ね、準備に奔走された学生さん達、先生方には感謝しかありません。

高専祭では例年、後援会より手作りのカレーうどんが振舞われておりました

電気科あるある？

娘が都城高専に行きたいと言い出したのは中学3年になってからの事でした。どこに行きたいんだろうと思っていたらまさかの高専でした。私の知っている高専は就職率が良く、ロボコンで有名であることくらいでした。

近くに姉も通った進学高があるのに、なぜ高専を選んだのだろうと聞いてみると、「お姉ちゃんが勉強ばかりしてるので見てたから、私はそんなのはいや」との返事。あれ、高専は勉強せんでもいいのかなあ、この子は高専のことをちゃんと理解してるんだろうかと思いましたが、5年間通って確実に就職の道につながるのであればまあいいか、と私自身も軽く考えていました。

今思うと、娘も私も高専生のレベルの高さ、専門科のハイレベルな難易度をまったく理解していなかったようです。

テストがあれば、毎回一つか二つの赤点をお土産に持って帰ってくるのです。

中学までは、そんなにできない子ではないと（親ばかですが・・）思っていたので、「勉強が足りんからだろう」と娘にはいつも言っていたのですが、それもあるにせよ、本当に専門科って難しいということが何となく想像できたのです。

それは親子面談のときでした。先生が、「電気は微分積分が理解できないと難しいから頑張ろうね」とおっしゃったのです。微分積分

が、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度は中止、今年度は来場者を入れず、開催することが出来ましたが、感染症拡大防止の観点から後援会からは個包装されたおにぎりの配布のみとなりました。

高専祭のカレーうどん作りですが、当日は執行部の方々、各地域の役員の方々、全学年から有志の保護者の方々が集まるところから始まります。点呼、後援会会长さんの挨拶が終わったら、楽信館へ向かい、エプロンと三角巾にマスクをし、ゴム手袋を付け、厨房で玉ねぎ、人参を千切りにし、大きなビニール袋に入れ、それを持ち、玄関駐車場前に6鍋ほど設置された大鍋まで運びます。各鍋に向かい、まず宮崎牛を大鍋で炒め、そこに切った野菜を入れしばらく炒めます。しなりしてたら水を20L注ぎ入れ、蓋をし、沸騰するまで保護者同士でのおしゃべりタイム。そこでは就職活動は？資格の取得は？教科書は？制服は？部活は？寮は？など、普段なかなか会って話すことのできない保護者同士で高専ならではの悩みを相談したりと、いろいろな話に花が咲きます。なるほどなるほど。参考になる話を先輩保護者から聞いたりしている間に湯が沸騰。アクを取ったら、カレー粉、めんつゆを投入し、味に深みが出てくるまでかき混ぜ、茹でたうどんの上にかけたら愛情たっぷりカレーうどんの完成！味見を兼ね保護者みんなで一足お先に検食。「美味しい！」朝早くから家を出て、食材を切り、大きなしゃもじを使い、交代で一生懸命混ぜ続けた甲斐もあって、美味しさ倍増！

徐々にカレーうどんを待つ列が長くなってくる。提供時間の12時前には長蛇の列となる。「配りはじめて下さい！」の会長さんの合図でカレーうどんの提供開始。皆さんの笑顔が溢れる瞬間。たくさんの笑顔が見られて最高に幸せなひととき。

来年度こそは高専祭伝統のカレーうどん作りが再開され、頑張ってきた学生さん達の笑顔が見られますように。そして、カレーうどん作り仲間がたくさん増え、たくさんの方々に出逢えますように。

西諸県支部 京保 信一

は、うん十年前私自身が超苦手とした数学科目だったので、これが理解できないと前に進まない電気の難しさが容易に想像できたのです。思わず娘に同情する私がいました。（笑）

笑ってる場合ではないのですが、先日、支部役員会で保護者と集まる機会がありました。会話が進む中で、「うちの子は電気科なのに電気が苦手でほんとに困っているんですよ。」と切り出したら、「うちの子もですよ。実は電気科の中には電気が苦手な子が結構いるって話です。これって電気科あるあるっていうそうです。」と。これを聞いてほっとしたのです。周りにもそういう子、悩める保護者がいるって事が分かったら気持ちが少し楽になりました。

早いもので、来年は4年生です。勉強も難しくなり、就職のことも視野に入ってくる学年だと思います。

これまでの3年間は、文化祭のカラオケに登場したり、英語弁論大会に出たりと活発な一面を持ちながら、本業の専門科には中々身が入なかつたようですが、最近は目標が見つかったみたいで勉強に励む姿が見られるようになりました。

これからも夢に向かう娘を全力でサポートしたいと思います。

まずは電気を克服しようね！

旧学生会長挨拶

建築学科5年 田原 匠

私は皆さんにとっていい学生会長としていたと思います。

任期を終えた今、私が一番強く感じたことは仲間の大切さです。ベタな言い回しではあります。しかし、この言葉以外でこないほどにそう感じました。この言葉以上に、仲間の大切さを表現できる言葉があればぜひ教えてほしい。

まず、学生会総務です。何か仕事があれば率先して動き出すのがこの総務なのですが、なんといっても副会長5M岩佐塔哉、彼の仕事への取り組みと言ったら迅速という言葉ですら追いつかない。彼は足以外も速いです。彼だけでなく他の総務の皆のことも書きたいのですが文字数が足りないので聞きたい人は個人的に受け付けます。この7人には感謝してもしきれません。

そして、学生会。局長をはじめとする各局の皆さんにも感謝しています。体育局長5A田中政悟の苦労は一番身近で感じていました。実は、私は彼と前年度の体育局員を務めています。私が学生会長に立候補したため、体育局経験者が1人という中さらにこのコロナ禍という状況の中、前期後期クラスマッチと体育競技会を盛大に開催してくれました。クラスも同じ寮も同じだから分かります。彼は過労死するところでした。彼だけでなく他の局員のことも書きたいのですが文字数が足りないので聞きたい人は個人的に受け付けます。

最後に、都城の高専に関わる全ての皆様です。在校生はもちろん、卒業生、専攻科生、先生、技術職員の先生方、掃除のおばちゃん、寮食のおばちゃん達、時々現れるネコすらもです。こんな私を学生会長にしてくださったのは間違いなく皆様のおかげです。裏を返せば、私は何にもできない、そういうことになります。そうなんです、人は1人では何もできないということを改めて学ばされました。

1人の人間として皆さんにアドバイスを送るとしたら、『たくさん遊んでくれ』これにつきます。これは悪いことをしろということではありません。とにかくこの5年間で様々な思い出を作ってください。もし何か行き詰まることがあれば、周りを見てみてください。仲間がいます。

ほんとうにほんとうに、クソお世話になりました。



新学生会長挨拶

建築学科4年 中元 景介

みなさん数ページぶりにここにちは、改めましてこの度学生会長になりました中元景介です。初めに今回任期を終えられた前会長の田原さんをはじめとする前学生会の皆様へ、新学生会を代表してお礼申し上げます。

正直私は歴代の会長さん方と比べ運動神経や判断力、インスタグラムの投稿数も圧倒的に少ないです。しかし慎重さだけは負けません。私はジェットコースターやお化け屋敷も嫌いなほど何に対しても臆病です。これは一見短所にも思えるかもしれませんがこのおかげで何度も何度も物事を考え、他人からたくさんの意見を求める文化祭などのイベントごとで何度も難を乗り越えてきました。まるで私が凄いような書き方をしてしまいましたが、ぶっちゃけると周りの仲間たちのおかげです。この学校にはコンピューターに強い奴、びっくりするぐらいのさうい奴、美しい女性方とたくさんの個性を持った頼れる、そして愛すべき約800人の学生がいます。本来学生会長として学生のみなに頼られる存在であるべきだと思うのですが、私のほうがみなさんを多く頼ってしまうと思います。そこで得たつながり同士をつなげていき、学校が悪い方へ倒れてしまいそうなときに学校を支える大きな網となるよう、学生指導部と学生会そして学生達の信頼関係を強固なつながりにするために注力していくと考えています。

学生指導部の先生方、保護者の皆様、学生達、昨年は文化祭で大変お世話になりました。今年もまた引き続き皆様のご協力は必要不可欠なものになります。どうか学生会の活動へのご理解とご協力をこれからもよろしくお願いします。

最後になりますが文化祭の文で私がこの文につながる伏線を張っていたことにお気づきだったでしょうか？伏線が凄いといえば大人気忍者漫画のNARUTOですね。彼らはイタチの名台詞「火影になった者が皆から認められるんじゃない」皆から認められた者が火影になるんだ「仲間を忘れるな」この言葉を胸に刻み、皆さんから学生会長としてこの一年を通して少しづつ認めていただけるように精進していきます。そして写輪眼を開眼します。

総務			広報局		
会長	4A	中元景介			
副会長	4M	森后太郎			
〃	4C	吉田怜矢			
会計	3C	鎌田梨那			
〃	2A	下原口治仁			
議長団	4M	梶原真			
〃	3A	金子晴飛	監査		
〃	2C	山下源	局長	4A	下村すず
監査			副局長	4A	森木大悟
局長	4C	宇都大和	局員	4A	今村空美
副局長	3E	児嶋理奈	〃	3A	日野姫風
〃	3M	森拓斗	〃	3A	雀部秀真
〃	2A	平川優明	〃	2A	花牟礼桜香
風紀局			体育局		
局長	4M	岡野達馬	局長	4E	代田笙
副局長	3C	安岡麻結	副局長	4A	吉永大騎
局員	4C	中原彩希	局員	4A	日高龍伸
〃	3E	真田征侍	〃	3A	溜池琉人
〃	2A	下醉尾淳矢	〃	3C	花畠空大
環境局			涉外局		
局長	4C	村上愛侑	局長	4M	歳川蓮
副局長	3C	新保優花	副局長	3A	永井敦子
局員	4C	桶谷優生	局員	2C	上村樹一郎
〃	3C	濱田仁誠	〃	2C	村山世莉奈
文化局			交通安全局		
局長	4M	三輪晃暉	局長	4C	井音羽
副局長	3E	有馬佐恵	副局長	4M	枝元航
局員	3C	武藤怜真	局員	3C	松崎留奈
〃	2A	今西友衣菜	〃	2M	堀之内泰心



学内トピックス

情報教育センター

情報教育センターは、本校の情報教育の基幹となる施設です。2018年4月に第1演習室と多目的室が、2019年4月に事務室と製作室、トイレがリニューアルされました。また、2021年4月からは名称が電子計算機センターから情報教育センターに変更されました。本校ではコロナ禍における学びの継続を目的として、昨年度より遠隔授業を取り入れています。そして、学生が自ら情報を取りに行く能力を身に付けるため、今年度からは授業中のICTデバイスの積極的な活用も行っています。さらに、来年度からは数理・データサイエンス・AIへの関心と理解を深め、活用できる能力を持つ学生の育成を全学的に取り組みます。このような社会の流れに応じて、情報教育センターはソフト・ハードの面で対応していきたいと思いますので、学生の皆さんも積極的に活用してください。



第1 演習室



第3 演習室

体育競技会

10月28日（木）に体育競技会を開催しました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学外からの来校はご遠慮いただき、学生と教職員のみでの実施となりましたが、当日は体育競技会実行委員の運営で、各種競技盛り上がりを見せました。

各学科が放課後や休日に多くの時間をかけて、熱心に練習を重ねてきた応援演舞には、見学していた学生・教職員から惜しみない拍手が送られました。また、今年度もご来場が叶わなかった保護者の方向けに、後日、応援演舞の録画配信を行いました。

競技優勝は機械工学科、応援演舞賞は物質工学科、看板賞は建築学科でした。



各学科団長による選手宣誓



女子クラス対抗リレー

綱引き

応援演舞

学内トピックス

文化祭

10月30日（土）に、2年ぶりの学園祭となる文化祭を開催しました。

今年のテーマは「Re:Start」でした。昨年の高専祭は中止を余儀なくされましたが、今年は、文化祭実行委員が、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら実施可能なイベントや屋台について検討を重ね、新たな日常を実現した文化祭となりました。

オンラインで実施した開・閉会式、1年生舞台発表、4年生研究発表、大抽選会の他、2年生脱出ゲーム、3年生学科開放や各種イベント、後援会によるおにぎりの無料配布がありました。

1年生発表及び3年生学科開放は、いずれも物質工学科が最優秀賞を受賞し、4年生の研究発表では、機械工学科が最優秀賞とプレゼン賞のダブル受賞となりました。



オンライン開会式



オンライン1年生舞台発表（最優秀賞：物質工学科）



3年生学科開放



オンライン4年生研究発表（ダブル受賞：機械工学科）



ロボットコンテスト2021九州沖縄地区大会

10月17日（日）、高専ロボットコンテスト九州沖縄地区大会がオンラインで開催されました。競技テーマは「超絶機巧」、すごい技を持つロボットを製作するという課題でした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、ロボコン活動が今年も大幅に制限される中での設計製作となり、目標としていた完成に届かない状態での大会参加となりました。

Aチームは独楽回しロボットを製作し、地区大会に挑みました。本来であれば、2台のロボットが回った独楽を飛ばして台に着地させる予定でしたが、残念ながら満足のいく動作を見せることができずに、地区大会敗退となりました。

Bチームは、カンガルーロボットを製作しました。空気圧を使って本物のカンガルーのようにジャンプさせる予定でしたが、本番で100%のパフォーマンスを披露することはできませんでした。7年連続となる全国大会への出場は果たせず、とても悔しい思いをしましたが、今回の活動や大会で学んだ事を活かし、来年こそは観客の皆さんの記憶に残る、そして会場を盛り上げられるようなロボットを作り上げていきたいと思っています。そのために、次のルール発表までに局員全員が技術を向上させ、伝統ある都城高専らしいロボット作りに挑戦していきますので、これからも応援をよろしくお願いします。

ロボット製作局一同

いじめ防止ポスターコンテスト

【第1位】3年機械工学科



【第2位】2年機械工学科



【第3位】5年機械工学科



10月30日（土）から11月5日（金）は、令和3年度のいじめ防止週間でした。今年度は、本科全クラスによるいじめ防止ポスターコンテストを実施し、10月30日（土）の文化祭において、学生及び教職員による投票が行われました。第1位は3年機械工学科、第2位は2年機械工学科、第3位は5年機械工学科の作品でした。各クラスのポスターは現在、本校図書館に掲示しています。5月上旬頃まで掲示の予定ですので、図書館に足をお運びの際はぜひご覧ください。

学生表彰



第58回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会中止に伴う代替大会

◎サッカー競技

サッカー部
松崎 颯汰 (5 C)
梶山 佳生 (4 A)
片平 力渡 (3 M)
福岡 千祐 (3 A)

準優勝

大会優秀選手
大会優秀選手
大会優秀選手
大会優秀選手

◎陸上競技

男子200m	岩佐 塔哉 (5 M)	第1位	22秒20
男子200m	関本 圭太郎 (3 M)	第4位	23秒17
男子400m	岩佐 塔哉 (5 M)	第1位	49秒97
男子1500m	庄屋 晴翔 (3 M)	第1位	4分12秒83
男子5000m	山元 敦司 (3 E)	第5位	16分27秒37
男子3000m障害	庄屋 晴翔 (3 M)	第2位	10分08秒56
男子4×100mリレー	種子田 峻聖 (1 M) 上森 匠馬 (1 A)	第3位	44秒38
	関本 圭太郎 (3 M) 岩佐 塔哉 (5 M)		
男子4×400mリレー	関本 圭太郎 (3 M) 岩佐 塔哉 (5 M)	第4位	3分33秒18
	庄屋 晴翔 (3 M) 山元 敦司 (3 E)		
男子走跳跳	亀川 巧 (5 A)	第1位	1m91
男子三段跳	種子田 峻聖 (1 M)	第3位	11m96
男子やり投げ	森山 大輝 (4 M)	第2位	34m40
女子100m	下瀬 彩音 (1 E)	第1位	13秒28
女子200m	下瀬 彩音 (1 E)	第1位	27秒08
女子走幅跳	長友 彩華 (5 C)	第2位	5m02

◎水泳競技

男子200m自由形	白谷 竜琥 (1 E)	第2位	2分03秒50
男子400m自由形	白谷 竜琥 (1 E)	第2位	4分20秒99
男子100m平泳ぎ	堀切 風音 (3 M)	第3位	1分12秒43
男子200m平泳ぎ	堀切 風音 (3 M)	第2位	2分39秒23
男子100m背泳ぎ	荒殿 大空 (1 A)	第2位	1分01秒95
男子200m背泳ぎ	荒殿 大空 (1 A)	第1位	2分18秒63
女子100m自由形	植田 丞美 (4 E)	第1位	1分07秒32
女子100m背泳ぎ	尾崎 彩花 (3 C)	第3位	1分13秒60
女子100mバタフライ	植田 句美 (1 A)	第3位	1分24秒25
女子200m個人メドレー	植田 句美 (1 A)	第3位	2分54秒97

◎柔道競技

男子個人 66kg級	目良 誠也 (2 E)	第3位
男子個人 73kg級	栗原 大虎 (5 E)	第3位
男子個人 81kg級	村永 祐晟 (4 M)	第1位
女子個人	後藤 円華 (1 C)	第3位

第56回全国高等専門学校体育大会

◎水泳競技

水泳部

総合第2位

男子200m自由形	白谷 竜琥 (1 E)	第5位	2分03秒54
男子200m背泳ぎ	荒殿 大空 (1 A)	第2位	2分15秒53
男子400m自由形	白谷 竜琥 (1 E)	第2位	4分22秒39
男子100m背泳ぎ	荒殿 大空 (1 A)	第1位	1分00秒68
女子100m背泳ぎ	尾崎 彩花 (3 C)	第2位	1分14秒74

◎柔道競技

男子個人 81kg級	村永 祐晟 (4 M)	第3位
------------	-------------	-----



学生表彰

第7回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

男子団体	弓道部	優勝
男子個人	永野 稔真 (3M)	優勝
男子個人	茂田 壮太 (2M)	第3位
男子個人	山田 航大 (3E)	第4位

第8回全国高等専門学校弓道大会

男子団体	弓道部	第2位
------	-----	-----

令和3年度宮崎県高等学校総合体育大会

◎弓道競技

男子個人	永野 稔真 (3M)	第5位
------	------------	-----

◎水泳競技

男子200m背泳ぎ	荒殿 大空 (1A)	第2位	2分20秒05
男子200m自由形	白谷 竜琥 (1E)	第3位	2分03秒50
男子400m自由形	白谷 竜琥 (1E)	第1位	4分24秒99
男子100m背泳ぎ	荒殿 大空 (1A)	第3位	1分03秒36
男子200m平泳ぎ	堀切 風音 (3M)	第5位	2分39秒23
女子200m自由形	植田 旬美 (1A)	第5位	2分32秒96
女子100m背泳ぎ	尾崎 彩花 (3C)	第4位	1分16秒15
男子400m自由形リレー	堀切 風音 (3M) 荒殿 大空 (1A) 松田 元気 (1E) 白谷 竜琥 (1E)	第5位	3分58秒97

全九州高校体育大会中止に伴う代替大会

◎弓道競技

男子団体	弓道部	第2位
------	-----	-----

令和3年度宮崎県高等学校新人総合体育大会

◎水泳競技

男子50m背泳ぎ	荒殿 大空 (1A)	第1位	28秒63
男子4×100mメドレー	荒殿 大空 (1A) 北川 修大 (1A) 松田 元気 (1E) 白谷 竜琥 (1E)	第5位	4分51秒04
男子200m自由形	白谷 竜琥 (1E)	第2位	2分06秒02
男子400m自由形	白谷 竜琥 (1E)	第1位	4分22秒62
男子100m背泳ぎ	荒殿 大空 (1A)	第2位	1分01秒07
女子50m背泳ぎ	植田 旬美 (1A)	第3位	38秒47
女子200m個人メドレー	植田 旬美 (1A)	第3位	2分54秒72

県高等学校一年生大会水泳競技大会

◎水泳競技

男子4×50mメドレー	西 優輝 (1C) 荒殿 大空 (1A) 松田 元気 (1E) 白谷 竜琥 (1E)	第2位	2分04秒90
男子200m背泳ぎ	西 優輝 (1C)	第1位	2分50秒38
男子200m個人メドレー	白谷 竜琥 (1E)	第1位	2分22秒31
男子50m平泳ぎ	荒殿 大空 (1A)	第2位	32秒34
男子100mバタフライ	荒殿 大空 (1A)	第1位	1分01秒51
男子100mバタフライ	白谷 竜琥 (1E)	第2位	1分02秒65
男子4×50m自由形リレー	白谷 竜琥 (1E) 荒殿 大空 (1A) 松田 元気 (1E) 北川 修大 (1A)	第2位	1分49秒77
女子200m自由形	植田 旬美 (1A)	第5位	2分35秒54
女子50m自由形	尾崎 琳 (1E)	第3位	34秒10
女子100m自由形	植田 旬美 (1A)	第2位	1分12秒10

第54回九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

暗唱部門	川口 航 (2A)	第3位
------	-----------	-----

宮崎県国際交流協会主催日本語スピーチコンテスト

学生の部	Ricardo (3C)	最優秀賞	テーマ「わたしと日本」
------	--------------	------	-------------

高千穂寮トピックス

入寮式

4月4日（日）専攻科多目的ホールにて、新1年生66名の入寮式が行われました。入寮式は、新入寮生と保護者参列の中、寮務主事の挨拶、寮生会会長の歓迎の挨拶、寮生会役員の自己紹介、関係教職員の紹介等が行われました。



寮祭

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催ができませんでしたが、今年度は第54回都城高専高千穂寮の寮祭が、7月10日（土）第1体育館で開催されました。新型コロナウイルス感染防止のため、例年の屋台の出店はありませんでしたが、ライブ・イントロあと・Mrコンテスト・抽選会を実施し、最後には花火を参加者全員で楽しみました。



寮役員選挙

10月13日（水）、寮生会役員立候補者の演説が第2体育館で実施され、その後今年から初めてスマートフォンを使った投票が行われました。立候補演説では、だれに投票するか決めるために、候補者の話に熱心に聞き入っていました。



留学生研修旅行

本校留学生の研修旅行が、12月11日（土）実施されました。これまで1泊2日で実施されてきましたが、今年は新型コロナウイルス感染防止のために、熊本への日帰りとなり、留学生4名及び寮指導部1名の5名参加で実施されました。

寮生総会

11月10日（水）に寮生総会が実施されました。寮生アンケートへの回答・寮生会決算報告・規則改正の審議が行われ、その後は新規選出された寮生会役員に引き継がれました。



寮生会役員委嘱式

寮生会役員委嘱式が、11月16日（火）に校長室にて行われました。校長挨拶の後、新寮生会長の4年機械工学科の歳川連さんが抱負を述べ、以下11名が、新たに高千穂寮寮生会の役職に就きました。最後に、校長・寮務主事及び寮生会役員の参加者全員による記念撮影を実施しました。



高千穂寮トピックス

国際寮（新宮）に女子寮生入寮開始

令和3年6月30日に国際寮が竣工し、後期開寮の9月25日から女子寮生全員が入寮しました。



国際寮までの通路

正面

国際寮は3階建てで北側と南側にそれぞれ入口があり、1階にラーニングスペースと2個のユニット、2階と3階に各4個のユニットがあります。各ユニットには、居室7室（1階は6室）、交流スペース、トイレ2ヶ所、シャワー2ヶ所、洗濯機2台、乾燥機（ガス式）2台、ミニキッチン（コンロはIH）、冷蔵庫等があります。

水廻り室①



入口



交流スペース



水廻り室②

48室の居室はすべて個室で、ロフト、机、書棚、壁式ハンガー、昇降式ハンガーは造り付けで、エアコンを完備しています。

また、居室に光ファイバーケーブルを配線しており、一般的なLAN方式のインターネットと比べると、配線距離、混雑による低速度やノイズによる影響を受けにくい設備となっています。



駐輪場



寮室①

寮室②



宮崎県国際交流協会主催の日本語スピーチコンテストに出場して

物質工学科3年 Ricardo (リョタ)

私はインドネシアにいたとき5年間ぐらい独学で日本語の勉強をしましたが、一度も日本語スピーチコンテストに出るチャンスはありませんでした。留学が決まって日本に来てから、東京の日本語学校に通って、やっとスピーチコンテストに出ることができました。しかし、オンラインで参加したため全然実感がわきませんでした。そのときに、「もしまた機会があったら、みんなの前に立って本当のスピーチコンテストに出たい!」と思いました。都城高専に来てチャンスがやって来ましたが、最悪なタイミングでした。スピーチコンテストのことを知ったのが後期中間試験の1週間前で、応募条件として、聞いた日の3日後にスピーチ原稿を完成させないといけない上に、試験終了の5日後がスピーチの本番という状況でした。私は一瞬参加するか迷いましたが、スピーチコンテストを実感したいという気持ちの方が大きかったため、覚悟して出ることにしました。



スピーチの原稿の完成と編集を含めて1週間しかなかったため、四六時中原稿の内容を考えていました。「私と日本」というテーマで、どんな内容が相手にインパクトを与え、どういう風にすれば共感してもらえるのかを考えた結果、母国と日本の文化の違いとして、「寮の大浴場」に関するテーマにし「裸の付き合いとは」について話しました。原稿を5分以内におさめることが難しかったですが、毎日練習し、先生方の協力でよい原稿に仕上げることができました。

試験終了後は毎日練習して、スムーズに最後まで言えるようになりましたが、表情は硬いままでした。本番の前日に友達に協力してもらって、やっと表情が少しずつ和らいできました。本番当日は少し緊張しましたが、スピーチをしていた時、思った以上に落ち着いていました。皆の反応がよかったです。ここまで頑張った甲斐があり、学生の部で最優秀賞をとることができました。また機会があれば、スピーチコンテストに参加したいと思いました。



熊本への留学生研修

物質工学科4年 Luvsansharav Anudari (アノ)

私は、日本に来てから初めて旅行に行きました。コロナが流行っている2021年の6月にモンゴルから来日してずっと都城を離れることができなかったからです。寮にいる留学生4人と松川先生と一緒に、熊本に行きました。最初に水前寺成趣園に行きました。自然が美しくて天気も良かったのでとても気持ちがよかったです。行ったのは12月でしたが、春に行けばもっといいなと思いました。お昼になって、鴨川という日本食のレストランですき焼きを食べました。生まれて初めて食べましたが、すき焼きは本当においしかったです。次に熊本城へ行きました。熊本城の外で侍たちがダンスをして面白かったです。熊本城の中には昔の日本人の生活の道具などが飾ってあり、昔の人の暮らしがよくわかりました。ただ、6階まで階段で登らないといけなかったので疲れました。その後の自由時間で熊本城の周りの美しい景色を見た後、熊本城近くへ買い物に行きました。ショッピングモールの中の帽子屋さんに行って写真をとりました。最後に紅蘭亭という熊本で有名な中華料理を食べた後、都城に戻ってきました。ちょっと疲れましたが本当に楽しくて面白い1日でした。いろいろな場所に連れて行って、たくさんのことを教えていただいた松川先生には感謝いたします。これからも都城や日本でたくさんことを知り、いろいろな経験をしてモンゴルに帰りたいです。





さくらサイエンス オンラインロボット競技会

ロボット製作局

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により海外からの入国が制限されました。しかし、オンラインでの交流がさくらサイエンスで可能となり、モンゴルの高専生とオンラインで繋がり、ロボット製作について技術交流を行いました。次年度はぜひひとと対面で実施したいと考えていましたが、感染拡大が終息せず、楽しみにしていたさくらサイエンスは今年もオンラインでの開催となりました。

今年はモンゴルの高専生と協働でロボットを製作して、最終日にロボット競技会を開催することとなり、1月10日に第一回目のオンライン交流が行われました。開会式では、今回のさくらサイエンスの内容がロボット競技会のルール等が発表され、本校ロボット製作局員6名とモンゴルの高専生9名が、科技大高専チーム・モンゴル高専チーム・新モンゴル高専チームの3つのチームに分かれて、競技会に向けてロボットのアイデアの検討を行います。

チームごとがセッションに分かれて、オンラインでの交流が始まりました。初日と言うこともあり、まずは自己紹介をして、互いの国でのコロナの状況や行動制限について話をしましたが、国によって制限の内容も大きく違うのだなと感じました。また、モンゴルの高専生たちは日本のアニメにとても興味を持っており、話が盛り上がる中でとても親近感がわきました。

この原稿は一回目の交流会終了後に書かせていただきました。これから週一回のペースで、オンライン交流を行いながらロボットの製作を進めていく予定です。モンゴル高専生は、授業で日本語を勉強しており、とても聞き取りやすい日本語を話してくれています。二回目以降は技術交流を進めながら、学生同士としての交流も深めていきたいなと考えています。最終日のロボット競技が楽しみですが、その模様はまた機会があったらお話しします。



International Symposium on Innovative Engineering 2021に参加して

国際交流センター 岩熊 美奈子

第5ブロック（九州地区にある高専は第5ブロックと呼ばれる）の高専は7年前から毎年、マレーシア北部にあるペトロナス工科大学(UTP)と研究発表会を行っている。UTPはペラ州にあるマレーシア内で有数の私立大学で、母体がペトロナスというペトロナスツインタワーを有する代表的な石油大手国営企業である。コロナ禍以前は九州の高専とUTPを交互に行き来し、高専生とUTP学生の交流の場となっていたが、コロナ禍の現在は、昨年よりやむを得ずオンラインにて開催となった。本校からは物質工学科5年生の吉岡侑史君がオンラインにて発表を行った。原稿、発表スライド、ビデオ撮影となれない英語で準備した経験は彼にとっても良い経験になったと思う。「スライド作成ではわかりやすい図とわかりやすい英語を用い、原稿については表現をどうするか、発音は正しかいか、特に日本の化学用語はドイツから輸入しており、英語と異なることが多い（例：カリウム=Kalium（独）=Potassium（英））英語と思って使っていた化学の用語が、調べてみると実は違った、ということも初めて知った。」とのことであった。

就職や進学など、高専生の進路は様々であるが、本校の学生にとって、異文化体験、グローバル化は重要な課題である。就職してから海外勤務をする卒業生や、進学先の大学、大学院から海外の研究室を経験する卒業生が多いと聞いている。また、国内勤務であっても卒業してすぐに「仕様書」と呼ばれる商品の説明書を海外向けに作成する業務や、海外の製品の仕様書の翻訳にあたる卒業生も少なくない。今現在、英語が苦手を感じている学生の皆さん、「英語の語学」ではなく「異文化コミュニケーションの一環」として英語を使ってみる機会を経験し、本校、高専を通じて日本の体験を海外の若者に紹介してみてはいかがだろうか。異文化体験を通じて幅の広い人格形成を育成する場にしてほしいと願っている。そのきっかけを国際交流センターで担えるように整備を進めているところである。



都城高専における「少年少女科学アカデミー」の取組みと成果

少年少女科学アカデミーとは

少年少女科学アカデミーは、小中学生の早期技術者教育およびグローバル人材育成のための小中学校・高専一貫教育システムを構築し実施することを目的として、宮崎県内の小中学校と都城高専の架け橋となるべく、令和元年度に設立されました。

目指すべき波及効果



過去の実施日程

少年少女科学アカデミーは、①「ベーシックプログラム」と②「アドバンスプログラム」の2つのプログラムで構成されており、これまで下記日程で実施しています。

【ベーシックプログラム】
2019.6.29~8.23
2021.8.2~11.3
※2020年は新型コロナの影響により開催なし

【アドバンスプログラム】
2019.12.25~12.27
2020.12.19~12.20
2021.12.11~12.12

①ベーシックプログラム

ベーシックプログラムは、小中学生を対象として家庭学習用のe-learningコンテンツ、実験・実習用教育教材及び本校の教育研究基盤を活用し、本校学生と連携して高度な研究体験を行うことができます。

<ベーシックプログラムの流れ>



<ベーシックプログラムの実験・実習の様子>



<ベーシックプログラムの発表会の様子>



2019年度は78名の応募があり、39名の小中学生が受講
2021年度は50名の応募があり、19名の小中学生が受講



都城高専
少年少女科学アカデミー

Institute of Technology Miyazaki Institute of Technology
Institute of Technology Miyazaki Institute of Technology

②アドバンスプログラム

アドバンスプログラムは、中学生を対象とし、「SDGs」を基盤として、研究者・技術者の視点で自主性や協調性、課題解決力を身につけるためのアイデアを生み出すトレーニング(アイデアソン)を行います。

<アドバンスプログラムの流れ>



Keyword

- SDGs
- 2050年の日本と世界の未来
- 宮崎県の産業

<アドバンスプログラム実施(アイデアソン)の様子>



<受講者が作成したマインドマップおよびプレゼン資料>



受講者アンケート自由記述(抜粋)

- 高専生や他の受講生の協力により論理的思考力や協力・協調する力が非常に向上した。
- 問題を解決する力など、色々な力を向上することができ、また来年も参加したいと思える良い体験だった。

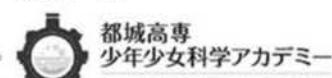
2019年度は10名、2020年度は16名の中学生が受講

広報活動

<専用Webサイト>



<ロゴマーク>



<紹介ムービー(YouTube配信)>



これまでの成果

2021年度本科入学試験において、182名の志願者のうち、本事業の受講経験者16名が受験

今後の展望

自宅学習用e-learningコンテンツや実験・実習用教育教材をより一層充実させつつ、大学や民間企業等とも連携できる仕組みを検討し、また、宮崎県の産業の発展に貢献するためにもアカデミー事業を広くPRし、継続的に実績を積み上げた上で効果検証を行っていきます。そして、コロナ禍においても本事業を継続して実施・発展させていくために、遠隔でも実施できる手法を確立させます。

主な就職・進学内定先一覧（順不同）

本 科			
機械工学科	<input type="radio"/> 株式会社アイ・エス・ビー <input type="radio"/> 株式会社アウトソーシングテクノロジー <input type="radio"/> アマゾンジャパン合同会社 <input type="radio"/> 株式会社オートテックジャパン <input type="radio"/> 花王株式会社 <input type="radio"/> キヤノン株式会社 <input type="radio"/> 九州小島株式会社 <input type="radio"/> 株式会社京製メック <input type="radio"/> サントリープロダクツ株式会社 森名工場 <input type="radio"/> 月島食品工業株式会社 <input type="radio"/> 株式会社ディスコ <input type="radio"/> 株式会社デンソー宮崎 <input type="radio"/> 東空販売株式会社 <input type="radio"/> 株式会社日南クリエイティブベース <input type="radio"/> パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社 <input type="radio"/> 株式会社ビオン工業 <input type="radio"/> 株式会社ブンリ <input type="radio"/> 三井金属鉱業株式会社 触媒事業部 <input type="radio"/> 株式会社ミツトヨ <input type="radio"/> 三菱電機エンジニアリング株式会社 <input type="radio"/> 株式会社村田機械 犬山事業所 <input type="radio"/> 山崎製パン株式会社 <input type="radio"/> 独立行政法人国立印刷局 <input type="radio"/> 九州工業大学 <input type="radio"/> 熊本大学 <input type="radio"/> 群馬大学 <input type="radio"/> 豊橋技術科学大学 <input type="radio"/> 都城高専専攻科 <input type="radio"/> 京都芸術大学	求人件数 計 577 件	
電気情報工学科	<input type="radio"/> ウナルステクノロジー株式会社 <input type="radio"/> NTTコミュニケーションズ株式会社 <input type="radio"/> NTT東日本（東日本電信電話株式会社） <input type="radio"/> 関西電力株式会社 <input type="radio"/> キヤノン株式会社 <input type="radio"/> チームラボ株式会社 <input type="radio"/> 東海旅客鉄道株式会社 <input type="radio"/> 東京電力ホールディングス株式会社 <input type="radio"/> 株式会社日産オートモーティブテクノロジー <input type="radio"/> 日信電子サービス株式会社 <input type="radio"/> ニフティ株式会社 <input type="radio"/> 株式会社日本触媒 <input type="radio"/> ファナック株式会社 <input type="radio"/> 宮崎県庁 <input type="radio"/> 関東学院大学 <input type="radio"/> 豊橋技術科学大学 <input type="radio"/> 長岡技術科学大学 <input type="radio"/> 名古屋大学 <input type="radio"/> 宮崎大学 <input type="radio"/> 和歌山大学	求人件数 計 584 件	
物質工学科	<input type="radio"/> ENEOS株式会社 <input type="radio"/> 株式会社環境総合リサーチ <input type="radio"/> 京セラ株式会社 <input type="radio"/> KMバイオロジクス株式会社 <input type="radio"/> 第一三共ケミカルファーマ株式会社 <input type="radio"/> 第一三共プロファーマ株式会社 <input type="radio"/> デンカ株式会社 <input type="radio"/> 東京ガスパイプラネットワーク株式会社 <input type="radio"/> 東レ株式会社 <input type="radio"/> 日東电工株式会社 <input type="radio"/> 株式会社日本触媒 <input type="radio"/> フジボウ愛媛株式会社 <input type="radio"/> 鹿児島大学 <input type="radio"/> 東京工業大学 <input type="radio"/> 東京農工大学 <input type="radio"/> 豊橋技術科学大学 <input type="radio"/> 長岡技術科学大学 <input type="radio"/> 宮崎大学 <input type="radio"/> 都城高専専攻科 <input type="radio"/> 都城高専研究生	求人件数 計 260 件	
建築学科	<input type="radio"/> 株式会社NTTファシリティーズ <input type="radio"/> 大阪ガス株式会社 <input type="radio"/> 株式会社九南 <input type="radio"/> コーアツ工業株式会社 <input type="radio"/> 三洋化成工業株式会社 <input type="radio"/> 株式会社新成建設 <input type="radio"/> 須賀工業株式会社 <input type="radio"/> 株式会社テクノプロ・コンストラクション <input type="radio"/> 東急建設株式会社 <input type="radio"/> 東京不動産管理株式会社 <input type="radio"/> 東レ建設株式会社 <input type="radio"/> 戸田建設株式会社 <input type="radio"/> 西日本高速道路株式会社 <input type="radio"/> 日本オーチス・エレベータ株式会社 <input type="radio"/> 日本国土開発株式会社 <input type="radio"/> 日本メックス株式会社 <input type="radio"/> 阪神高速技術株式会社 <input type="radio"/> 三井住友建設株式会社 <input type="radio"/> 三井地所コミュニティ株式会社 <input type="radio"/> 防衛省 <input type="radio"/> 大分大学 <input type="radio"/> 都城高専専攻科 <input type="radio"/> 都城高専研究生	求人件数 計 303 件	

専 攻 科

機械電気工学専攻	<input type="radio"/> 株式会社アイ・エス・ビー <input type="radio"/> 出光興産株式会社 <input type="radio"/> SCSKニアショアシステムズ株式会社 <input type="radio"/> ソニーセミコンダクタ マニュファクチャリング株式会社 <input type="radio"/> 山本光学株式会社 <input type="radio"/> 九州大学大学院 <input type="radio"/> 九州工業大学大学院 <input type="radio"/> 熊本大学大学院 <input type="radio"/> 静岡大学大学院	物質工学専攻	<input type="radio"/> 株式会社九州大真空 <input type="radio"/> 日東电工株式会社 <input type="radio"/> 久光製薬株式会社 <input type="radio"/> 大阪大学大学院 <input type="radio"/> 九州大学大学院 <input type="radio"/> 東京工业大学大学院 <input type="radio"/> 東北大学大学院	建築学専攻	<input type="radio"/> 株式会社大林組 <input type="radio"/> 株式会社七呂建設 <input type="radio"/> 清水建設株式会社 <input type="radio"/> 大和ハウス工業株式会社 <input type="radio"/> 熊本大学大学院
----------	---	--------	---	-------	---

専攻科全求人件数 計 1,570 件

(令和3年12月末現在)

都城工業高等専門学校校歌

作詞 清水 徹
作曲 海老原 直

Moderato

mf con spirto

(1)きょう うおか んきき はれい 一きわ ゆしほ るきに きひう 二りたる 一しえ 一わ 一また 一し のるべ みふま
ねるた みきお ねみお とやし 一おーく 一くにち ああさ おたき 一おひに 一つしお 一つきう たこみ
かうや きがま りべき そのり うみじ にきま あきか くわた 一あど あどり るとて こひひ ろいく もじゆ きわた よれけ ははき かつ よび よくう うび ゆこは
めこな ほのほ ぐとひ くわら まきか 一んのん まきま ななな びびび 一や一や 一ぞぞぞ あ
あ こ う せーん み や こ の じょ 1.2. 1.2. 3. (2)と (3)た じょ



三

高き岩根に美しく
また雄々しくも咲き匂う
広く豊けき教養の
ああ高専都城
花は開かん学舎ぞ

二

遠き歴史を伝えたる
古き都に新しき
工学の道極めんと
集いしわれら八百の
心と技術の学舎ぞ
ああ高専都城

一

暁雲映ゆる霧島の
峰々遠く仰ぎつゝ
高き理想にあくがるる
心も清き若人の
夢はぐくまん学舎ぞ
ああ高専都城



独立行政法人国立高等専門学校機構

都城工業高等専門学校

National Institute of Technology(KOSEN), Miyakonojo College

〒885-8567 宮崎県都城市吉尾町473番地の1

TEL(0986)47-1107 FAX(0986)38-1508

URL <https://www.miyakonojo-nct.ac.jp/>